

158号

考える主婦の投稿誌

新冠婚葬祭入門・結婚記念日  
特集投稿・私のパート体験  
座談会・目ざめよパートタイマー

特集  
主婦の半自立・パート労働



M・ヘッグ、B・ヴェルクメステル共著 柳沢由実子訳

スウェーデン

# 女性解放の手引

B 6判 二二二頁 価一、二〇〇円

これは本当にスウェーデンのことを言っているのか。女が自由で平等な国は世界中に一つもないと言ってもいい。それでも女たちは差別に耐え、嘲笑に耐え、抑圧に耐えている。著者たちは、このような現実を見事に分析してみせる。そしてこの現実を変えするために、どのような一歩を踏み出したらいいか、というヒントを与えてくれる。

E・E・マツコビイ編 青木やよひ・河野貴代美・山口良枝訳  
池上千寿子・深尾 凱子

# 性差—その起源と役割

四六判 三五〇頁 価一、八〇〇円

動物学、生物学、児童心理学、行動心理学、発達心理学、文化人類学、社会学の各分野の専門家七人が、性差について三年間、研究し討議したものが基礎になっている。性のように様々な要因が複雑にからみ合ったものを対象にする場合、このような協同研究の成果は非常に貴重なものである。女性問題に関心のある人に理論的根拠を提供する。

A・ゲゼル著 狼にそだてられた子 価 八〇〇円

ドロリーエ著 自閉症児の治療教育 価四五〇〇円

辻村輝雄著 戦後信州女性史 価 八〇〇円

半田たつ子著 書くこと生きること(家庭科と私) 価 八〇〇円

東京都文京区目白台三十二一四 家政教育社  
電話九四五六二六五 振替東京七七三三八二

\*現代ジャーナリズム出版会の本

読者の言論 『新聞投書論』改題 影山三郎著 一五〇〇円

婦人雑誌の世界 今井田勲・三枝佐枝子著 四八〇円

レイアウトの技術 田中薫著 I 一五〇〇円  
II 一六〇〇円

弥富村診療記 ある医師の25年 縄田皆夫著 二二〇〇円

インド・ネパール旅の絵本 清水 潔著 一四〇〇円

ニッポン旅の絵本 西洋館・街道・蔵と民家・城跡 田中 薫著 一五〇〇円

旅の文化誌 ガイドブックと時刻表と旅行者たち 中川浩一著 一八〇〇円

孤魂物語 親子・教育・女色・秘事 木田紀雄著 二二〇〇円

冤罪の研究 九つのドキュメント グループ社会派 二二〇〇円

\*伝統と現代社の隔月刊総特集誌『伝統と現代』  
33号 性と家族 保存版 八〇〇円

48号 女 七〇〇円  
51号 こどもの世界 七〇〇円

49号 妻たちの歴史 七〇〇円  
58号 自閉と現代 七〇〇円

59号 巡礼 七〇〇円

現代ジャーナリズム出版会と伝統と現代社は姉妹社です。書店でご注文ください。図書目録も送呈します。

東京都新宿区市ヶ谷田町二一五  
電話 〇三―26917697



表紙・小山田チカエ  
イラスト・西田淑子  
カット・神谷圭子

### 特集 主婦の半自立・パート労働

投稿・私のパート体験 .....	14
〈アンケート〉パート主婦の収入と意識 .....	20
流行のアルバイトを洗ってみれば .....	24
座談会・目ざめよパートタイマー .....	26

《新・冠婚葬祭入門》結婚記念日 .....	2
• たていとよこいと .....	6
• わいふティーチイン .....	10
《わいふ家庭科》メーカー直販衣料セール秘密 .....	32
《手探りの自立》サロン風お菓子教室 .....	36
★イギリスとの出会い② .....	早川裕子 40
《離婚のしかた教えます》③ .....	和田好子 44
• 書評・情報コーナー .....	50・51
• おしゃべり .....	52
• 投稿規定・編集だより .....	55・56

連載 ③

新・冠婚葬祭入門

# 結婚記念日



19年目



スタート



15年目



2年目



11年目



9年目

「結婚記念日をどう祝っていますか」というのが、今回の趣旨であった。ああそれなのに、祝うどころか、その日すら覚えていない夫（僅かだが妻）のいかに多くいたことか。

この世を去った人でさえ、「祥月命日」といわれる日には、その近親者達によって、生前の人徳をしのばれる、というのに、二人ともこの世に在りながらの「結婚記念日」は、あまりにも雲の彼方に消え失せてしまつていて、としみじみ思つた。

生きざまの厳しい現世、二人の大切な記念日は、夫と妻ともどもの「確認の日」であつてもいいのではないかと考えさせられた次第である。

### ☆忘却の記念日

「遠く夢見る二人のまなざし、それはバラ色に包まれていた」という結婚式当日の新郎新婦は、やはり錯覚の世界にいるようだ。しかし、「日々、年々、二人の愛を誓い合つて……」の甘い約束は、早くも半年、五年も経てば、あとかたもなく消え失せ、現実の結婚生活は色彩で表わしたら、何色になるのだろうか。

か。

人間がこの世に「生」を受けた日は誕生日。男と女が結婚した日は「結婚記念日」とは誰かが御存知。ところが

「あなたの結婚記念日は？」

と問ひかけて、正確に答えられない、忘れてしまつたという人が、あまりにも多いのに驚いた。これは百人を越える結婚歴十年以上の男女についてであるが、さすが女性はほとんどが覚えていてる。

もつとも、或る日美しい包装のチョコレートを差し出す夫を不思議そうに見て、「あなたこれなあに？」と聞き、はじめて「記念日のプレゼント」とわかり、「しみじみ夫が可愛想だつたわ」というつ、わものもいることはいる。しかし男性の方は、少数の例外を除いて皆がみな「いやあーいつだつたかなあ」と頭をかく。しどろもどろの日付や、特に印象深かつたのか娘の生まれた日を「その日」と決めこんでいたり、思い出して欲しいという妻の強制に会いしばし沈黙、じつと考え続けた揚句「うん、十月二十七日!!」と確信をもつて答え、妻の怒り心頭に達せしめた御仁もいる。ちなみにこの御夫妻の結婚記念日は一カ月一日遅れの十一月二十八日であつた。

日本在住のフランス・アメリカ人夫妻七組

に同じ質問をすると、「お互に気をつかい合つてるので、忘れるということは絶対にない」という答えが返つてきた。毎日「愛している?」「愛している!」と確かめ合い、それを怠ると即刻離婚につながる、というアメリカ人などに較べると、日本ではまだまだ男と女の会話はおだやかで、

「忘れた……」

「あらいやあねえ、忘れちゃつたの」と可愛らしい。

二十代で女性を追いかけて『我が物』にしたら、あとはその妻が家の中で、社会の中でどう生きようと無関心、が大半なのだから、その獲得した日など、とうの昔に忘却である。

### ☆想い出のアルバム

このような状況の中で、毎年の記念日を大切に祝い、その記録を残している、というのはきわめて珍しい例であつた。

この稿のトップを飾っている六葉の写真、これは、この五月二十六日に結婚二十一年を迎えられた、東京・田園調布にお住いの、佐藤将<sup>（むね）</sup>・恵美子夫妻がこれまで「門外不出」とされてきた「結婚の歴史」だ。

お二人が毎年の記念日に必ずすることは、外出の仕度をして写真館に行き、その年の「夫と妻」を撮影してもらい、それから食事に行く。祝膳はその年々の好みで洋風、和風、中華風といろいろ変化があるけれど、かわらぬのは「記念撮影」。(原則としては「夫婦」なのだが、時には子供達も参加している)

これはお二人の日課ならぬ「年課」だ。しかもこれを課した「陰の人」の心を思いやっ、中斷することもならず、続けてみると、「なかなか味のあつた事」と楽しくもある。

佐藤さん御夫妻は幼なじみではないが戦後の隣組結婚。お母様同士の交際はあつたが、恵美子さんは庭越しにチェロを弾く彼の足元だけを時折見かけ(勿論その音楽も耳にし)将さんは、遊びに来た友達を送つて出てくる彼女の後姿を時折見かけ(勿論その笑い声も耳にし)……という程度であつたが、大人達の勧めで婚約した。

その頃恵美子さんをとても大事にしてくれたお手伝のおばさんが、その「陰の人」なのだ。二人の結ばれるのを非常に喜んで、仕度のいろいろを親身になつて手助け、時々遊びに現れるようになった隣人の彼と二人の時、そのおばさんが昔話をしてくれた。それは自分の結婚生活のあれこれで、その中に毎年記

念撮影をしていたこと、現在それを取り出して見るのが一番の楽しみ、というのがあつた。「いい話だねえ」

「私達もそうしてみましようよ」

というこで、それから二十一年、「おばさんのいい話」を引き継いできた。多忙の日常生活に流されて「もう止めようか」と思つたことも事実だが、おばさんの「新しい門出へのはなむけ」だつたと思ひあたり、また毎年のことを中斷すると妙なことが起きるよう不安もあつて、とうとう「記念日の行事」として、佐藤家に根付いたのである。

アルバム第一頁は若々しく美しい新郎・新婦、二頁目にはやわらいだ新妻振り、可愛い二世を間に、と二十一頁に渡つてあり、銀行勤務の夫君の転勤によつて舞台はタイ、神戸、東京、ボンベイ、東欧旅行中迎えたウィーンでの記念日と移り、国際色豊か。单身赴任の年は何と「夫」のみの写真が遠くボンベイから留守宅に届けられたそうだ。その頁には「夫」「妻」別々に撮影された写真が寄り添うように貼られてゐる。また音楽会の切符の半券が入つてゐる頁は、お二人にとつて、こよなき思い出なのであらう。

「表沙汰は気恥しいけれど、振りかえてみて、この記録はやつてよかつたと思ひます。

その後行方の知れぬおばさんが、現在の私達を見てくれたら、どんなに喜ぶことでしょう。探しているのですが……」

### ☆記念の品を一つずつ

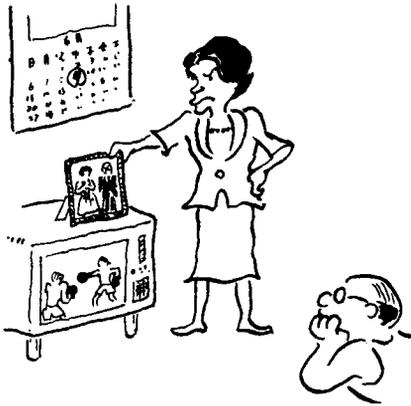
東京・板橋区の小沢和雄・鈴代夫妻は結婚歴二十年、子供はなく夫は広告業界、妻はコピーライターとして活躍している。仕事を待つ夫婦は外で食事、というのは日常茶飯事のことだし、取材の為に旅行も年中。むしろ記念日には家でゆっくり料理をし、ゆっくりと祝杯をあげたいという。ところが毎年二人の仕事の都合ですれ違ふ。そこで一年に一つ品物を吟味しておいて、記念日にそれを買う。

新婚旅行で京都に行った時求めた「小引出」は和室に、リビングの壁には篠田桃紅の「墨象画」、ガラス戸棚に「イタリア人形」、その他日本文化史の全集、絵画、絵本、おもちゃなどの「記念日の想い出」が部屋のおちこちにある。お正月には「輪島塗のお重箱」で祝い、長い間欲しかった尾形光琳手描きの復刻版「百人一首」は家宝のようなもの。

「二人が一生楽しんでいいですよ。それぞれ家庭にふさわしい品を探して、それを大事

にしていくことは大切です。忙しさにまぎれてといわず、今年はお皿一枚、来年はいい湯呑と年ごとに想い出を重ねてみたら……」とすすめられた。

この他にも夫から年に一度大きな花束を手渡される妻、家族連れで食事に出る夫婦、そして「この一年つつがなく過すことができた」と両親にお礼の電話をする人がある。前記のアメリカ・フランス人家庭では、パーティーを開いて、大きなろうそくをともしながら、友人、知人と楽しいひとときを過ごし、夫から宝石やその他の贈物を受ける妻がほとんど。日本人との生活習慣の違いを感じる。



これは伝聞だが、俳優の岡田真澄さんは、一年目の記念日に腕輪一つ求め、年ごとに面白い細工のものや、珍らしい作りのペンダント・トップをそれにつけているそうだ。価値の張るものではなく、何処にでもあり、誰でも買える品を、センスで勝負している、という。

最後にこれもあまり例のない、本当の結婚記念日を捨てて、養女の誕生日を記念の日としている東京・日野市の松田さん夫妻の話。結婚当時、再婚の妻は中学三年の娘を連れていた。それから十年たった娘二十五才の誕生日に「お前の二十五年は我々の二十五年」と銀婚式をした。その娘が結婚したあとわずかつと、その日には娘夫妻、孫ともども食事をし、夫妻は結婚記念日の、娘は誕生日のプレゼントを交換している。

養女の父親になりきる、という考えのもとに実行してから二十年、夫、妻、娘、それぞれにいたわり合いの中で「十分に幸せ」だという。夫妻はつい先日、二人の間に生まれた息子の結婚式をすませたばかりだが、「あと五年で『金婚式』を迎えます」と楽しそう。人と人との愛情を確かめあう方法の一つとして、下世話にいう「偽（いつはり）でもいから……」という言葉が思いだされる。

☆

日本で行われる還暦、喜寿、米寿などの祝いごとは「個人の生命に対する寿ぎ」であるが、『結婚記念日』はもともと西洋の風習で、結婚後特定の周年日に「夫婦の健在」を祝う儀式の日。一般には銀婚式や金婚式が良く知られているが、紙、木、銅婚式など一年ごとに名前がつけられている。

『金婚式の装飾は金色と白色、花も黄色と白色が使われ、五十年前の結婚式に列席した人にはできるだけ出席してもらおう。そして夫妻はこの日、花婿・花嫁と呼ばれ、それぞれ結婚式に用いた思い出の品を一つ身につけて式場に姿を現わす。結婚年と金婚年とが書かれたウェディングケーキに花嫁がナイフを入れて、花婿から純金のプレゼントを手渡される』（百科辞典）のだそうだ。

結婚五十年目にもう一度花嫁姿とは、考えただけでも楽しくなるが、それも夫婦健在で五十年もの長い年月の結婚生活を経た後となれば、これはどうして至難の技である。

されば一年一年いとおしみ、それぞれが自分達にふさわしい『結婚記念日』を重ねていくのも意義深いと思うが、いかが？

（原田 静枝）

# たていと よこいと



## 私の言い分

赤井久美子

二歳十ヶ月になった息子は、片言をよくしゃべり、可愛いさかりである。けれども、あと何年か後、彼も又私にこうたずねるのだろうか。

「どうしてボクを産んだの、生まれてくなんてなかったのに……」

私もずっと昔、母に何度か同じことを聞いた。その度に、母がなんと答えたかは覚えていないが、多分適当にはぐらかされたのだろう。母にとっては、子

供は「授かりもの」であり、産み育てることは、炊事や掃除と変わらない、ごくあたりまえの女の務めであったのだろう。であるから、苦痛に耐えて生み、自らを犠牲にして育てた子供から、感謝されこそすれ、非難めいたことを言われるとは、心外だったことだろう。

けれども私は、違う。最終的な決定は、神の手にまかされているとはいえ、自然の成り行きに身を委ねたわけでもなく、誰かに強制されたのでもなく、私は自分の意志で子供をつくり、産み、育てている。

私には、自分の意志とは関係

なくこの世に送り出されてしまった子供の問いに、きちんと答えなければならぬ義務があるように思う。頭の中で考えていることが、うまく文字にならないもどかしさがあるが、とにかくその時に備えて、自分の考えを整理しておきたい。

何故子供を生み、育てているか。その第一の理由は、生物としての本能に基づくものである。理屈ぬきに、とにかく新しい生命を産み出したかったのだ。第二の理由は、自分自身の人生を豊かにしたいがため、である。女として生れた以上、大昔からほとんどの女が体験してきたことを、私も体験してみたい。それによって、今まではつきりと見えていなかったものが、はつきりと見えてくることもあるだろう。もつと単純に、あの甘い匂いの赤ちゃんを、この手でいつくしみたい。可愛いセーターなどを編んでやりたい。

第三の理由は、ぬるま湯人生

を送ってきた甘い私の一人よがりかもしれないが、子供自身のために、というものである。生きていくことは確かに多くの苦しさを伴うものであるが、苦しさばかりではない。人生には、さまざまな感動や感激、喜びや悲しみもある。もちろん、苦しさは味わわせたくはないが、あのキーンと全身を貫く感動、全世界が光り輝き出す喜び、などは是非とも味わわせてやりたい。それには、とにかく生れ出てきて、この世に生きなくてはならない。

そして最後に、大きな視野にたつて考える時、すべての人類が、より長く、より豊かに繁栄して行く方向を「善」と考えるならば、限りある我が身にかえて、その意志を受け継ぐ新しい生命を、産み育てることは「善」であり、使命でもあろう。

これが私の親としての言い分である。子供には子供の言い分があるだろう。やはり生れてこ

なかつた方が良かったと考える  
かもしれない。親のエゴじやな  
いかと詰るかもしれない。けれ  
ども、私が、なんとなく出来て  
しまった子供を、なんとなく産  
んで、なんとなく育てているの  
でないことだけは、わかつて欲  
しいと願っている。

(東京都 府中市)

## 母の遺産?

徳光利子

暑い夏のまっさかりに他界し  
た母の命日が、今年で十八回目  
になる。事情があつて学校教育  
を受けられなかつた母ではある  
が、私の今日の生活面に、いろ  
いろとプラスになつてゐること  
が沢山ある。

まず梅雨のころ、緑美しいつ  
ぶらな梅の実を塩でつけて赤じ  
そを入れる。秋になつて彼岸花  
の咲くころ、心をこめてフトン  
作りをする幸せ。狭い庭に四季  
折々の花や木を植えて、家族の

住居の環境をよくする等々。い  
ちいち手をとつて教えられはし  
なかつたけれど、どんな時でも  
愚痴を言わず、セッセと働いた  
母のお蔭だと、今更のように母  
の遺産の尊さに頭の下がる思い  
である。

そして今、母の日近く、懐し  
い母の手を、あらゆる角度から  
想ひ出している。

苦勞をもの語る

あのおふしくれたつた手

冬でもポカポカと

温かだった手

季節の花々を

美しく咲かせた働き者の手

孫たちに親しまれた

あの優しい手

この間読んだある本に、「働  
いて、生きていつて、母にはお  
前にのこした遺産はなくて」と、  
詠んで亡くなつた母親の枕の下  
から、ミレーの「子供達に食事  
を与える母」の絵が出てきたと  
書かれていたけれど、健康で働  
くことに喜びを感じたという点

で、私の母と全く同じだとおも  
う。

私が金銀財宝でない母の遺産  
について、真剣に考えるようになつたのは十年ほど前から。子  
供たちに何らかの形で、自分と  
いうものを残したいとあれこれ  
手をつけた。まず下手の横好き  
の習字。年齢的なものかも知れ  
ないけれど、遅々として進歩が  
おそく、時として自己嫌悪にお  
ちいる。又、毎日の生活記録の  
ような下手な文章を綴ることに  
興味をもつてから、原稿用紙の  
山の高さに生きがいを感じるよ  
うになつた。

子供達が私と対話の出来なく  
なつた時、何と思つて読んでく  
れるだろう。その時の情景をほ  
んのチョッピリ頭に浮かべながら、  
今日もペンを運ぶ。時として、  
拡大鏡を手にして辞典を引く母  
の姿を、息子や娘は何と思つて  
見ているだろう。

「人生は死ぬまで勉強だ」と言つ  
た、先人の言葉の半分の一でも

分つてくれたら本望だと思つた  
が……。

そして、子供たちに有形無形  
の人生の遺産の中から、母でな  
ければ出来ない尊い遺産を心の  
どこかで受けとめて、次代の発  
展に尽してくれるよう願うこの  
ごろである。

(千葉県 柏市)

## 娘と私の戦い

山根茂子

四月から、あと数ヶ月で共に  
四才と二才になる娘を保育園に  
あずけて、仏壇蒔絵の見習いに就  
きました。

常々、女も経済的に(精神的  
にも勿論のこと)自立しなければ  
ならない、と思つていますが、  
職場復帰を強く望まれたことも  
あつて、何のためらいもなく娘  
を園に入所させましたが、今は  
仕事への興味と、娘達の激しい  
園嫌いと、余りにも自由の少な  
い保育のやり方への不満との板

ばさみで悩んでいます。

「ぜいたくな悩みなのかもしれないが、金さん（つれあいの愛称）に励まされて、娘達をあきらめさせ、園に慣らすことが

先決、と一カ月の休みをとって現在は午後一時で迎えに行つて

いますが、心は、仕事はあきらめよう、娘達をもう少し伸び伸び育ててやりたいと思う気持ちでいっばい。三十女がまだ金さんに依存しているのは、とっても悪いような氣もしますが……。

伊藤雅子さんの『子どもからの自立』を愛読して、フムフム納得納得“なんて言つてた私ですが、今では“保育園に入れる為に働きたした母親もいる”なんて、信じられないといった氣持です。

「わいふ」にも“教職に終止符を打つたとき”という記事がありました。が、“保育園に入れない、でもはいれない”となげくお母さんの文章の多い中で、かわつた女もいるもんだなあと思

つたのですが、私も自分の娘達をあずけてみて、このひとの氣持がわかるような氣がしました。朝が来れば、娘達と私の戦いがまたはじまります。

（広島県 安芸郡）

今、私は

M・K

世に言われる「継母」の私は、「とにかく母親っていうのは……」としたり顔で発言できる資格がないのかもしれない。と言うのは結婚歴四年養育歴四年、九才の女兒をもつ私にとつて、今ももう娘である以外の何者でもない存在になつた子供の親として、まだこうした事を書く自分自身に疑問を抱きつつどうしても書きたいという衝動にかられペンを握っているからである。

「ママハハ」「ママッコイジメ」等のきまり文句を贈られ、常に他人の目を意識しては「らしく……らしく」と心にきざみつけ、

実母であつたら“こんな言い方はしないだろうか”“こんな怒り方はせず、仕方がないと苦笑するだろうか”“いつも子供の言う事に、ニコニコうなづくだろうか”と考え悩み続けた日々。

心の中に二人の母を持つであろう子供の心を探りつつも徐々に親類縁者の関心も薄らぎ、何度かの夫との話し合いや冷たい戦争、ヒステリー、あきらめ、あがき、を繰り返して今少しづつ無事の家庭になりつつあると思えるようになったのは最近であるように思う。

けれどまだ学校で「あの子は何エー」と指さされてはいないか、道行けば笑顔で挨拶のあと「あの人はね……」とヒソヒソ話の餌食にされてはいないかと案じないといつたら大うそになる。継母が悪いのか！ 継子がそんなに可哀そうなのか！ 後妻がおかしいか!! と、誰も何も言つてはいないだろうに愚かにまさけんでまわりたい時だつて

ある。

これがノイローゼというものなのか、あのハッスルウーマンの自分はどこに消えたのかと、みじめに打ちひしがれる時もある。こんな時ふと私は、仕事をしようと思つたのである。

この様な状態ではない平凡な家庭の主婦であっても社会参加しようとすれば足をひっぱられる条件は山程あるのであろうが、あえて挑戦しようと思つた。職場探しの結果折良く見つけることができた。「お母さんは元の仕事をしたいの、元の所へは戻れないけどね。一週間の内一日おきに留守になるけれど、どう？」幾度かの元の職場からの復帰の勧めを泣く泣く辞退したあげくの一年ぶりの相談だった。

夫は心からかどうかは定かではないが幸いにも賛成してくれた。やはり家において子供の心の安定を与えてほしいんだろかな“と思いつつやはり「よかつた」と思わずにはいられなかつた

た。「いやだ」「何時頃帰るの」  
「誰か来たらどうするの」「友達のお母さんは大抵家にいるよ」  
等々と言いながらも、夫の口添

えもあつて洪々承知した。「子供に留守番させてまで……」「やっぱりね」「さみしいだろうに」と言われたつて、クソくらえ!!と何故か沈みがちな心を奮いたたせ、家事にはしわ寄せしないことを心に誓ひ、いよいよの仕事始めは去年の春からであつた。

今のところ心配したようなことも起こらず胸をなで下ろしている。子供が病氣の時は夫が一時間仕事を遅らせてくれたりして感激しながら電車に乗ると心が弾んでくるのである。

今は趣味のおけいこ事を復活させ「お母さんはいつもいそがしい」というイメージづくりと肩の張る「良い母親像」の打破にやや成功し、帰宅後は、宿題を終えていない娘をくどくどと叱りつけながら、晩酌のビールを冷蔵庫に入れようかどうか迷

いながらピンを片手にウロウロとあわただしい夕方を迎える日々である。

継母もまた母親そのものであるという実感はまだ確たるものではないが、いつかこのような文章を書かなくなつた時が当り前の親になれた事なのではないかと思う。

いみじくも私の仕事とは、幼児教育者の末席をけがすものである。

(東京都)

## 空白のひととき

### 高橋悠子

友よ、先日は楽しいひとときをありがとう。満開の桜のトンネルの下、懐しい歌を口ずさみながらそれぞれの想いを、時折舞い散る花びらにのせて、どこまでも続く土手を並んで歩いたひとときが、そこだけ明るく暮れなずんで日々の生活に潤いを与えてくれています。

「桜の花も大したものだ。毎年決まって忘れずに咲くんだから」  
そうです。素晴らしいことです。

花木はみな大地に根を張り、一年に一度自らの命を精一杯に花開かせて……。それに比べて私達はどうでしょう。あれもした、これもしたいと思ひながら、日々の生活に流されていつの間にか年だけ重ねて……。あの枝もたわわに美しい花を実らせる桜のように精一杯美しくそして優しく多くの人々の心をなごませ、一方では着実に根を広げ、幹を太らせ、再び一年後に同じ場所が開花する。

「人生一度しかないんだから、思う存分生きなくては」

花の香りにつまれて芝生に坐り、ギター片手にハモッテいる学生達、エネルギーに肩を組み道一杯に円くなって「フアイトオウフアイト!」と気えんをあげている闘士達、「立て飢えたる者よ……あアインタナシヨナル……」軽く口ずさみな

から十数年前の私達を想ひ出してました。はじけるような若さを振り返りながら。

花見酒のほろ酔い気分、遊園地のブランコに乗り、メチャクチャに押し寄せて喜んでいる童心の大人達。「別れても別れても心の奥に……」私の大好きだつた歌をいつの間にか歌い出していた友。イエスタデイ、海、小さなスナック、無縁坂……数々の歌と花と思ひ出のフィナーレを胸に「じゃあ気をつけて」とさり気なく別れた友。桜の季節が様々な人々に与える様々な想ひ。とても日本的でステキな夜桜見物でした。

家庭も仕事も日常の生活もすべて忘れて、自然の中で心触れ合うひととき、そんな空白の時間が人生には必要な気がするのです。

(東京都 練馬区)

## 主婦は手を抜いているか



四方愛子

うち続く不況の中、外食産業なるものだけが巷に繁栄を誇っているそうである。新聞の報ずるところによれば、これはひとえに最近の主婦が手抜きをしたがるせいであり、食卓はすっかり權威をなくした亭主族が、女房子供の機嫌をとりつつ、つかの間の家族だんらんを楽しむ場所となっているそうである。

私はこと味覚に関しては超保守主義者であるから、昔ながらのそば屋やあんみつ屋が次々と大資本になぎ倒された跡地に、何とかキンやらマクド某などのけばけばしい看板が立ちならび質・量のわりに値段だけは一人前の「ファミリーレストラン」が進出するのを見て、まったく不愉快な昨今である。実際あれはレストランなんてものじゃなく、画一性といふ非創造性といふ軍隊のキャンティーンに近く、従業員がそろって一種のニギニギしい礼儀正しさみたいなのを仕込まれているのだが、その土台がだいたい軽薄なので、そのぶんだけずうずうしい感じがするのである。

で、悪口を言い出せばきりがないのであるが、これを一口に主婦の手抜きときめつけられては、ちょっと待ってと言わざるをえない。大体今の主婦は、昔に比べて、むしろべったり我が家の台所にへばりついて（へばりつかされて）

いるのではないだろうか。戦前の小説など見ると、中流のサラリーマン家庭（現在国民の九割以上は中流なのだそうだが）ならば、必ずといっていいほど、ばあや、女中、子守のたぐいが一人はいるのである。それでなければ、電化製品もなく電話のかわりにいちいち出向いて用を足さなければならぬ生活は成り立たなかつたのである。そしてそれだけ人件費が安く、食べさせ住まわせるといっただけで、人間ひとりを朝から晩までこき使えたのである。戦後いかに電化製品が発達したからといって、電子レンジに向つて「私はちよいと用があつて出かけるから、晩のおかずは何かみつくりつておくれ。旦那様には昆布茶をさし上げるのを忘れないで」とは言えないのである。

旦那様、奥様、子供、女中という戦前の構成から女中がぬけて、使用人ぬきの核家族になつたと思うのは錯覚で、抜けたのは実は奥様のほうで、旦那様、女中様、子供となつたというのが正しい。女性週刊誌のあおりたてるバラ色の結婚のあとにくる主婦の生活の実態はこれである。ただ民主主義のおかげで、家庭というわく内では、女中も相当キツイことを旦那に向つて言えるようになったし、財布のひももある程度握れるので、一家そろつてめでたくファミリーレストランにおでましというわけだ。

今や戦後生まれの女たちは、男と同等の教育を受け、言いたいことを言うのは呼吸をすると同じこと、スキーやテニスや海外旅行の楽しみも知ってしまったのだ。いいの悪いのと言うより、現在の主婦のあり方に不満が出るのはことのなりゆきとして当然ではないか。主婦が解放されたか

ら外食産業がはやるのではなく、現段階の主婦の解放は、この程度の安っぽさだということなのだ。

食事文化の貧困化に比例して咲きほこる外食産業のあだ花にまどわされないためには、まず男の料理能力を開発すること、そして主婦のほうも、もう少しデカイ規模での家事からの解放をめざして、長期的展望のもとにカネと「亭主の協力」を積みたてていこうじゃありませんか。

(千葉県 柏市)

## 米国スリーマイル原発の事故に思うこと



大貫淑子

私は少しばかり消費者運動をやっている、会合で都心に出ることが多いのですが、ビルの谷間を歩いていて、ふと言いかねぬ不安に襲われることがあります。特に高層ビルの林立している所では、何か押し潰されそうな圧迫感に眩暈を覚え、緑が見えてくるとほっとしたりします。

私が住む国立市は、新宿から電車で四十分の所にあり、都心から比べると空気も澄んできれいなのですが、それでも十年前と比較しますと、山歩きから帰った時など前の棟との間の空気の汚れが目に見えて感じられ、自然がだんだん遠くなるなど思わずにはいられません。

最近の新聞を見ていて、三月二十八日に米ペンシルバニア州スリーマイルアイランド原子力発電所で起きた事故

ほど衝撃を受けたものではありません。何しろ十七万年に一度起こるか起こらないかと言われた炉心溶融という大事故が発生したのですから。現在も炉心内部は溶けつづけ、最低二年以上は冷し続けないと、いつまた大事故に発展するかわからない危険な状態にあり、現場作業員はものすごい放射線にさらされ、十四人が危篤状態という報告も来ているのです。(「生存のための動員」からの情報)

新聞などによると炉心溶融はなかったかのように言われていますが、実際には炉心の溶融はかなりの程度進行し、燃料棒の中にたまっていた死の灰がいきよに吹き出し、このうち気体性の放射能は、全て、環境中に放出され、また、収納容器内にもれ出た大量の放射能を含んだ一次冷却水は、サスケハナ川に捨てられたそうです。今回の事故は少なく見積っても広島級原爆の数発分にあたるもので、今後、長期にわたって広範囲の人々の生命と健康、さらには自然環境にまで恐るべき災いを及ぼし続けることは確実なようです。日本でも育児書で著名なスポック博士は、「スリーマイル島原発の風下の地域では、子どもたちは今後生まれにくる子どもたちも含めて「白血病や、その他のガンになることを覚悟しなくてはならないだろう」と述べています。私たち母親は対岸の火事と見過ごしてよいものでしょうか。今回の事故は種の保存にとつて全く悲しむべきことだと思ふのです。

日本の安全委員会は、事故の様子のはっきりしない時点で「日本では起こり得ないこと」と無責任な安全宣言を行って全国反対住民の怒りをかいました。が、その後の報道で

も明らかかなように十九基ある日本の原発のあちこちで故障があることがわかり、これまで安全性を主張してきた通産省・科学技術庁・電力会社は、もはや国民を瞞すことは許されなくなりました。

米国の事故は当初、人為的ミスと伝えられましたが、その後詳しい事故の経過をみますと、最初の予期せぬトラブル以外はほぼ必然的な連鎖をたどって燃料棒損傷まで至っているようです。

五月十一日米国原子力規制委員会は原発に新改善令を出し、運転関係者が原子炉内で発生した事態を掌握できなかつたため、小規模にとどめることのできた事故を大きくしたとして六項目の勧告が出されました。その中で設計不備が指摘され、緊急事態での運転員の有効な行動を妨げているとしているところから、最新の原発ですら「欠陥商品」であることが明らかにされました。日本でも同じような事故が起こり得ることを思えば、建設中、稼働中の原発はただちにストップして、全国的に議論をまき起こす必要があるでしょう。

米国原発推進側のラスムッセンの報告によれば、茨城県東海村にある「東海二号炉」(二一〇万KW)がもしも炉心溶融を起こしたら、なんと七十六万人の死者と二二〇万人のガン等の晩発性障害が出るのが予想されています。

晩発性障害のうち一五〇万人は、一〇〇km地点にある東京の住民であることも重ねて指摘されているのです。とにかく全部の原発を一時停止させるところまで世論を起こさなければならぬと思います。なぜなら、多くの技術を米国

に頼っている日本にとって、原発の「安全神話」はもはや崩れ去ったのですから。

それでも多くの方たちは資源のない日本にとって、石油にかわるエネルギーは原子力発電だと思い込んでいることでしょう。けれども原発を造るには石油を三倍も必要とし、稼働率も四〇%弱と低く、事故の危険性を常時はらみ、使用済み核燃料の保存に管理の強化と莫大なエネルギーを必要とすることを考えるならば、原発は人類と共存できないことは明らかです。また、石油がなければ原子力発電所は建設できないし、核燃料のウランも、殆どが輸入(米国)に頼っている現状です。

「石油がなくなる。だから原発だ」という威しも、これどうやらつくられたものようですし、振り返ってみれば身の回りにはプラスチック製品や合繊等、石油製品がゴロゴロしているわけです。電気器具なども必要以上にあふれて(いや買わされて)エネルギーを浪費する方向で日常生活が営まれているようです。石油は中国やメキシコにまだ無尽蔵にあるとはいっても、エネルギー多消費型の経済構造を根本的に改めていかなければどうしようもなく、家庭にあっても暮し方の質的転換を迫られているといえましょう。

科学信仰(万能)の人間の傲りが今回のような事故を生んだとするならば、謙虚に自然と共存していくにはどうしたらよいか、マクロなことから日常の暮しぶりまで念頭に入れ、文化の問題も含めて一人一人が新しい生き方をさぐっていかねければならない段階にさしかかったのだと思うのですが……。

(東京都 国立市)

## 鎌倉書房

〒162 東京都新宿区市谷左内町21 ☎03-268-5101(代)

●図書目録を送ります。お申込みは小社宣伝部へ。

才能の芽を摘みとられないために……

## 女の才能が育つ条件

俵朋子著 980円

『女の時代』と謳われよ

うとも、まだまだ女の

才能を伸ばす仕組みに

はなっていない世の中。

女性が、持てる才能を遺憾なく発揮

して成長するために必要な条件とは――

悪条件をかくぐり、才能の花びらを開かせてき

た14人の方々を徹底分析して得た結論を一冊にま

とめて贈る俵朋子の力作。14名の方は――中村汀女／

朝倉撰／菊田澄江／池田敬子／志村ふくみ／花柳

幻舟／朝吹登水子／高田敏子／小林千寿／鍛冶千

鶴子／森英恵／古島町子／石井ふく子／沢村貞子

ガンバリママ小西章子さんの本

遙かなるポストン 980円

青春のポストン大学、六人の女友達は今。アメリカ各地

での15年目の再会は、歳月がおりなすドラマであった。

六人の軌跡を辿り、現代アメリカ女性像を捉えた本。

スイン子連れ留学 950円

周囲の多くの危惧と驚き、そして少しだけの励しに見

守られ、三人の幼い娘を連れてマドリッド大学へ。子持

ちでも留学はできる、とママさん達に夢を湧かせた本。



## わいふ

### 既刊号紹介

バックナンバーをお手許に揃えたいかた、  
残部が品薄になってきました。この機会に  
ぜひご注文をお寄せ下さい。  
各冊54頁・三五〇円・送料二二〇円

- 144号 なぜ結婚するのか
  - 145号 ことも預けるととき
  - 146号 母性とは何か
  - 147号 女と政治
  - 148号 ニューファミリーの実体
  - 149号 産む性から医師へ
  - 150号 本音の子育て
  - 151号 女の戦後三十年（暮しの手帖にそって）
  - 152号 男らしさは作られる
  - 153号 老いとの戦い
  - 154号 活字ばなれのおとなどごとくも
  - 155号 母親はどこまで必要か
  - 156号 夫の転勤
  - 157号 女の遊び・男の遊び
- 印は品切れですのであしからずお許し下さい。  
ご注文は直接編集部へどうぞ。

半

自

立

労

働

特集投稿

# 私のパート体験

## 日雇い労働者経験

永目利子

パート、アルバイトというところ、結婚前、今から十年前ぐらいの事を思い出します。

当時も短大を出たって職もなく、NHKへアルバイトとして入りました。ボーナスや退職金などを出さないでいい、という理由で女の子三人をやとい、二カ月出では一カ月休みという具合で、二人出ている間は一人が休んでいて、常時、女の子が二人来ているというまことに頭のいいやという方です。

休んでいる者は日雇い労働者手帳というのを持っていて、月の二十日程、日曜をのぞいて自分の好きな日に、九時頃までに職安へ行き、三十分程待って、働いている時の何割かのお金をもらって帰るといふ具合です。毎月というか、私の休みの月、一年に四カ月ありますが、その時職安へ行くメンバーはいつも

同じでしたが、NHKだけでなく、県庁・市役所もそういう制度をとっていて、話をしてみるとNHKは九百円ちよつとの時、県庁などは六百円位だったと思います。だから職安でもらう時も、NHKの子は働かなくても一日六百円程もらい、役所の子は四百円位だったと思います。

主婦のパートが働く女性の賃金を引き下げているだけでなく、そういう形で女の子をやる事、メリツトを得ている所もあるという事です。

でも気楽といえば気楽、休みの月は一月中にばられる事なく、朝から三十分程出かけるだけでお金をもらい、あとは自由という、キリキリ働く必要のない家の娘には、適した職場だったかもしれません。日雇い労働者健康保険があつて、初診料五十円で歯の治療もしました。

出産でやめました。これからは働くとしたら、厚生年金、健康保険などのある所で働き

# 主婦の

# パート

たいと思います。

(神奈川県 川崎市)

## ある集会

鈴木恵子

パート未組織労働者の集まりがあり、その後、月一回平均で連続討論会を開いています。参加は十人足らずで、残念ながらパートで働く人たちの関心はあまりないようです。外国の新聞が休刊になったように、パート労働者がストでもすれば、一部業種では仕事がマヒするほど、実際のパート及び臨時雇いに依存している率は高いと思うのですが、労働者という意識が低く、権利を主張するというところまでいきません。一旦解雇通告を受けながら、一人闘う中で職場復帰をかちとった「星さん」を中心に、パート未組織労働者の連絡会をつくろうと話合っています。(私自身なかなか参加できませんが……)

先日の新聞に「パート労働者が増えればそれだけ失業者が減ることになり、雇用情勢の悪化を食い止める効果があることは確か」などと出ていましたが、がっかりさせられます。「家事と両立するので、主婦に適した雇用形態」と労働少年局が言うに至っては、逆に主

婦は(家庭持ちは)パートしか勤めがなくていいという現状を追認してしまいます。薄給のパートでは生活できないということを、忘れてしまっているようです。

と言っても、私自身が確実にサラリーを運んできてくれるつれあいがいるものですから、ついこづかい稼ぎになってしまいます。予期せず暮に三万円ボーナスを手にしたときは、これで千円の本が三十冊買えると思いい、うれしくてたまりませんでした。これが本音です。

(千葉県 市川市)

## ENGLISH TEACHER

鈴木みち子(32才)

☆きっかけ……友人の子供がアメリカへ行くのに英語を教えてほしいと何かのまちがいでたのまれたのを「ヨシヨシ」とひきうけたばかりに今日に至っております。手紙の訳なども少しやっています。

☆やり方……中学生は一人五十分ずつ週三回、高校生は一人一時間週三回、浪人生は、一人で問題が解けて私に説明ができて、あぶなっかしくなくなるまで問題をやって、週四回。何人もまとめてやらないで、個人的にやっ

てます。

☆収入……イッヒツヒ。いいたくない。

☆収入のゆくえ……わけのわからぬ内にな  
いというのはどうなのか、誰ぞため方を私  
にレクチュアードしてください。

☆亭主の態度……前より尊敬度（私に対す  
る）が高くなった風で。私もこういう人間だ  
から、少しやばい問題が登場すると、生徒を  
亭主におしつけてしまう。亭主の方が教え方  
はより上手だからして。

☆得点……別になし。英語の勉強ができ  
るぐらい。

☆損な点……一番最後に行く家庭でごはん  
を食べて帰ってきて、夜更けに又、亭主とご  
はんを食べてうっかりすると南きん豆でビー  
ルでカンパイをやらかすから、日に日に（D  
AY BY DAY）体重はふえて、ついに  
恐怖の二段腹となってしまった。個人教授に  
ついてるから絶対家の子は成績が上がると思  
う親のいること。家の子に雇ってやってるか  
らと、夜うち朝がけで、こちらの都合はどう  
でも、あちらの都合で押しまくられる点。

☆キケンな点……浪人野郎にホレラレル点。  
目ざめるお年頃だから非常に非常にやりにく  
い。

☆被害者……①ネコ。マミーはこのごろち

いともかまってくれなくて、夜ごはんとブラ  
ツシかけもわすれちゃってさ。ボクはお留守  
猫にかわれているんじゃないのです。

②いつも一日二回行ってたコーヒー店。この  
ごろ全然行かないもんね。

そんなわけで、今日も四人やつつけてきた  
ような案配です。当分の間、続けるつもりで  
います。しかし、私が英語の先生やつてもい  
いのかしらね？ 世の中バカなのよ。今のと  
ころ、私のレクリエーション兼勉強のような  
きもちでやっています。だから、お金もどこか  
に、飛んでいってしまう。私は、今の私にと  
っては、それで良いと思つているので。毎日、  
ハッピーにくらしているのですよ。

（東京都 世田谷区）

### 私のパート経験

堀田恭子（27才）

五年前の新婚当時、結婚してから子供を出  
産する一年三ヶ月あまりをパート勤めしまし  
た。同い年の主人は働かなくてもいいヨ、し  
んどいならやめたらと再々言ってくれました  
が、見知らぬ土地で朝から晩まで一人ポツネ  
ンと部屋に残っていますのは、たまらない気  
持でした。主婦業といいましても、二人の生

活では炊事も掃除、洗濯もすぐ終わってしま  
うのです。私の実家が傾いていたせいもあつ  
て、自分の手で働きたいと思いました。経済  
的に自立した女とやらを実践してみたかった  
のですが、特別な資格や才能があるわけなし、  
仕事に生きるというよりは二人の生活を固め  
るための資金作りでした。正社員になります  
と、責任や義務が生じてそれに縛られますか  
ら、主人は残業のない時間給のパートにした  
らと勧められました。

住いから二分の職場をみつけ、経理事務員  
パートとして働きました。午前九時から午後  
四時までの実働六時間、時給三五〇円の仕事  
でした。ガソリンスタンドの伝票整理の仕事  
は根をつめると三、四時間で終わる量でした。  
ヒマになると、プライベートに本でも読んで  
いたかったのですが、パートだから規定時間  
は働かなくてはという意識があつて、他の人  
の仕事を手伝いました。真面目だったのだと  
思います。

午後からよく早退して料理教室など各講習  
会に出席しました。会社からは何の文句もあ  
りませんでした。月給は皆勤しても四万ちょ  
つとで私の平均月給は三万円程度でした。食  
費の足しになるくらいで、私のパートはヒマ  
つぶしの要素が多分にありました。恵まれた

職場でしたが、生きがいを感じられるわけがなく、出勤する時はいつもグズグズして、時間ギリギリになってからあわてて家を飛び出す始末でした。今思うと、働くことをもっと楽しめなかったのかしらと思います。

(大阪市 城東区)

## 人との出会いが広がって

田中千恵子

稽古ごとをやる身分でないかと気が付いたのは、苦手であった書道を手がけて三年目。検定や展覧会の度に、貯金通帳の中身が目に見えて乏しくなるのは痛手で、とうとうやめたのです。さあ今までの浪費を挽回と思っていた矢先、御近所のお嬢さんから、法務局のアルバイトにと声をかけられたのはラッキーでした。

法務局では研修の為の欠員が出ると、その職員の穴埋めにアルバイトを使うのです。

どんな仕事か行ってみて驚きました。書庫の中にズラッと並んでいる謄記簿は数えようもなく何千(万?)冊とあり、申請者の依頼に応じて、その重たい謄記簿を出し入れする仕事。お役所といえれば何か、閑散として……といったイメージとは大違い。ひっきりな

しに出入りする申請者の数知れず、書庫と受付と、閲覧者の間を往復する回数などは、まさに枚挙するにいとまもなく、ローラースケートの欲しくなるような重労働でした。

労働時間は、朝九時からお弁当持ちで夕方四時まで。第一日目帰宅してすぐ炊事にとりかかり、次の朝の下準備などして床にもぐり込んだ私は、恥しい話ですが疲れのあまり、夢の中で手洗いをすませてしまいそうなところでハッと目が覚めた程。さてこれで、どのくらい続くものかと不安になってしまいました。ところが職員は皆、親切で、対人的には全く悩みがなく、一週間のうちに仕事の内容もほぼつかめ、身体も、仕事に慣れたせいか、まあまあといった状態で、「人事移動通知書」なるものも戴きました。

「事務補佐員に採用する。任期は一日とする。任命権者が別段の措置をしない限り任用を日々更新する。……日給金二八〇〇円を給する」といった風に。当時、一人息子は小学三年生、法務局は息子の学校の目と鼻の先だったので、運の良いアルバイトでした。

それから三年——研修生が出る度に私は電話・本で呼ばれて出かけ、一ヶ月又は、二ヶ月と区切って勤務するのですが、その間に接した職員達のまじめで明朗な態度、又内輪で

の温かなチームワークは、私の頭から世間にあるがちな、お役人のイメージを一掃してしまったのです。又、アルバイトとは言いながら、専門的な仕事の一部も、手を取るようになら、教えて戴いたので、チョット腰掛けの仕事とは思えませんでした。

主婦は、とかく日常の生活の中で人間関係が限られてしまい、ますます動き難い小さな世界に閉じ込められてしまいがちですが、私はこの仕事の故に、随分多くの人々と接し、考え、楽しみ、心を自由に泳がせることが出来たので、日給の安さは何のそのとばかり、今でも電話があれば、家庭の中のつごうのつくり、いそいそと出かけて行くのです。

(神奈川県 小田原市)

## パート保母の悩み

高橋裕見子

この四月から、息子は、私が三月までパートの保母として働いていた保育園に通っている。

私が保育園をやめて、同地内にある学童保育所の指導員として働き始めたからなのだが、私がパートの保母から、子どもを保育園に通わせている母親になったことで、いままでは

んやりとしか見えてこなかった父母の存在が、子どもを迎えに来るだけだった父母の存在が、急に見えてきたような気がする。

それは母親という同じ立場になったというだけでなく、父母会等、出席する機会があり、父母達の保育に対する熱心な取り組み方に触れたためかもしれない。そして、そんな父母達は、時間外保育の経過をこんなふうに話す。時間外保育がなぜできたのか。最初は時間外保育はなかった。しかし働く母親達にとつて、子どもを四時半に迎えに行くのは不可能なことであり、当然時間外保育をしてほしいという要求が生まれることとなった。

ここで、時間外保育をしてほしいという父母会と、そのために労働時間が延長される保母との間に対立が起こり、この対立はつい最近まで、(時間外専任保母を一名置き、パートの保母四名とともに時間外保育をするという形になるまで)続いていたそうだ。

そして父母達は、こういう時間外の形をつくり、保育時間を延長させたのは父母達の力なのだと言っている。

父母達は時間外の大切さは語るが、その大切な時間を時給四百八十円で働くパートの保母については語ろうとしない。この一年、ただの一度も父母とパートの保母との話し合

いがなされなかったのもうなずける。

パートの保母が時間外保育をやるようになって、正規の労働時間にもどった保母たちは、時間外だけを保育しなければならぬパートの保母のことをどう考えるのだろうか。そして時間外の子どものことを、どう捉えようとしているのだろうか。父母達又は保母達のパートの保母に対する考え方はつきりさせたいと思いつつ、最後は、パートの保母であった自分に向かっていく。私はどうだったのか。

はじめて保育園に勤めた日、その日は入園式で、入園式のあと保母の親睦会があり、その席で園長から「わからないこと等、質問してほしい」と言われ、「時間外のカリキュラムは、時間内とのつながりもあり、去年まではこの点どうしていましたか」と質問して、「時間外は、保育するなんて考えなくても良いのです。ただただ事故を起こさないように子どもをみていければ良いのです」と言われ、啞然としてしまった。

こんなふうにしかな時間外を考えられないとしたら、時間内も時間外もない子どもたちはどうなるのだろうか。私は、専任の保母と時間外の子どもたちについて何度も話し合った。昼間、きちんとカリキュラムにそって生活し

ている子どもたちを、時間外までもそうするのはどうだろうか。時間外は、充分遊ばせるというのはどうだろうか。

実際(子どもたちが楽しく遊べるように)教室を、運動場をとびまわった。与えられた時間をなるべく充実させたい、それだけだった。父母達と話し合うことも頭になかった。はじめて保育園にはいった私に、まわりが見えなかったこともあるし、話す機会が一度もなかったということもある。しかし最も大きなことは、この時、もうパートの保母という立場をそのまま受け入れていたのだということだ。パートという立場が、ものを言わせなかったといつてもいい。

そしてこのことは、パートの保母のまわりだけでなく、私自身の中に、パートは正規の職員ではなく臨時にすぎないとする、パートに対する、いわゆる思いこみ(言いかえれば偏見)があったということだろう。

たとえ三時間しか働かなくとも、ここで働いていることにはかわりはないのだと思ひ、たった三時間しか子どもをみていなくとも、子どもを保育することは同じだと思ひ、たずなのに、時間外保育に関するあらゆる疑問を、父母たちにも園長にもなげかけなかったのは、私の気持の底の方に「パートにすぎな

い「みたいなものがあつたためではなかったのか——。

このように、パートそのものを問い直すことができなかった私は、パートをそのまま肯定しないというところから始めなければならぬと思う。パートそのものに疑問を持つことによつて、働く人（父母や保母）の労働条件を、又別の人（パートの保母）がもつて悪い条件で守るという、どこかがまちがっているような、こんなところにもわかりやすい線を引きけるような気がする。

最後に、パートのことにつけ加えたいことがひとつある。一月の「私たちの男女雇用平等法をつくる会」の集会に参加した時のことだが、「私はパートのおばさんです」と言つてマイクの前に立つた人がいた。彼女は、正規の職員と同じ仕事をしていながら、働く時間が少しばかり短かいというだけでパートとしてしか働けないのはおかしい。だから、ここで提案をしたい。一日三時間だけ働く正規の職員がいてもいいと思うし、一日五時間働く正規の職員がいてもいいのではないかと。

このようなことを話した。  
おかしいという点をきちんと捉えていて、その上でパートがパートでなくなるための、すつきりとした楽しい提案であることが、私

にはとてもうれしかった。

（埼玉県 坂戸市）

## 私はしません

橋本由紀子

資格や技術の類を全く持たず、さらに一半の子供を抱えた私が仮にパートで働くとしたら、まず子供を誰かに預けなければならぬ。その預け代を見積り、低いパート収入から差し引いたら、手元に残る金額が微々たるものであることは確かだ。微々たるものでも収入はないよりあつた方がいい。現にお金は欲しい。パートでも働けば、家計のやりくりは今ほど頭を悩ませなくてもよいし、少しはゆとりをもつて買い物もできるだろう。幸い体も丈夫な方だし、子供もごく普通に育っている。パート勤めができないわけではない。私がパート勤めをしないのは収入が低いからという理由からではない。

結婚して子供ができて働きたいと独身の頃から思つてはいたが、パートで働く気は全くなかった。働くならばできるだけ自分の能力を生かせる場で、ライフワークへつながるものをもと望んでいた。当時、こま切れのアルバイトやパートをいろいろやっていて、それ

らがいかに自分の生活時間帯を単に切り売りしているに過ぎないことであるか、給料をもらうたびに思つていたからだ。そう思いつつてもやっていたのは、独り身の気楽さで「好きなことをやる」ための資金稼ぎと割り切つていたからである。

結婚して一児をもうけた今、今こそ腰をすえて、子育て後の「仕事」のための準備期間として自分の内にいろいろため込んでおきたいと思つている。そのために、パート勤めを時間をこま切りに裂くことはしたくない。

これは見方によつてはぜいたくな考えというつるかもしれない。確かに少しでも家計の足しにと、時間をやりくりしてパート勤めをやることなくしている主婦もいることだろうし、家計の足しどころか不足分を補つて余りある働きをしている主婦も多いことだろうと思う。

しかし、少なくとも私個人にとつては、金銭的な余裕よりも、生活に一貫した精神的なゆとりを持ち込みたい。ゆとりを持つてじっくりと将来のライフワークに備えたいと思う。私が純粹に「自分のため」だけのものをみつけ、育児や家事の合間に専念することで、精神的な子離れもできると考えるがゆえにのことでもある。

（神奈川県 横浜市）

# パート主婦の 収入と意識

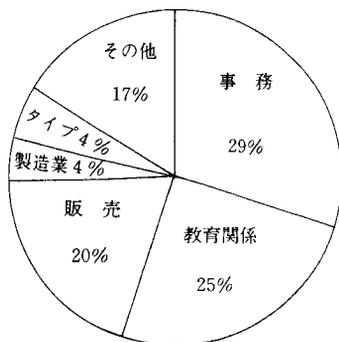


表1・職業別に見た主婦のパート

この調査の対象となった一二七名の主婦の年齢は、二十代十五名、三十代六二名、四十代四五名、五十代四名でした（一名は記入なし）。夫の職業は、ほとんどが会社員または公務員（八四名）で、自営が十二名、医師など自由業が九名、教員八名、会社役員五名、その他及記入なしが九名となっております。大部分が平均的サラリーマン家庭の主婦のようです。

## ☆パート収入十万以上は七パーセント

まず彼女たちがパートタイムで働いた仕事の内容と収入を見ますと（表1、表2）一口にパートといっても内容は多彩です。

事務は経理、秘書、受付その他の一般事務すべて、販売関係は、店員、セールスの他、スーパーでの値つけ、包装なども含めました。生命保険会社などの場合は、集計事務などの内勤者は事務に、外交員は販売のほうに数えてあります。教育関係というのには、保母、家庭教師、茶道師範、自宅での料理や絵画教室など人に何かを教えるものすべてを含めました。

主婦の余暇を利用して家庭でできるサイドビジネスなどという文句で、トレリスなどの通信教育が最近目につきますが、実際

に校正、トレリス、版下などの特殊技術を生かしている主婦はまだ少ないようで、「その他」の中に一人ずつ見られたにすぎません。パートの収入というのは、時給、日給、月給などの支払方法がばらばらの上、不定期の仕事も多いので、非常にまともにくかったのですが、大体月収を割り出して比べてみますと、七割近くが五万前後から七万前後に集中していることがわかりました。

月に十万以上かせいである人は七パーセントにすぎず、その多くはセールス関係で、数年來仕事を続けているようです。いったん家庭にひっこんだ主婦が職につこうとしても、新卒者の初任給にも満たないわけです。これを差別とみるか、どうせ遊んでいるよりは千円でももらった方が有難いとみるか……。事務、販売では、大体相場がきまっています。

パートの職種と年齢、夫の収入との関係も調べてみましたがあまり関連はないようです。夫の年収が一千万以上の六人の主婦のうち五人が「教養業」（残り一人は通訳）だったのが興味をひいた程度。夫にカネと地位ができてくると、妻の仕事にも「世間体」が微妙に反映するというわけでしょうか。

しかし一般に言って主婦のパートというの

は、本人の年令や夫の職業、収入と関係なくさまざまなケースがあるのが特徴のようです。サラリーマン家庭の専業主婦としていったんおさまると社会人、職業人として復帰するには決まったコースがなく、各自の立場で工夫と努力をこらさずしかないとあらわしているように思えます。

### ☆夫の年収四百万の境界線

それではこうして得た収入を、主婦たちほどのように使っているのでしょうか。それによって、主婦自身がパートをどのように意識しているのかがうかがえます。

主婦のパート進出の動機としては、マイホーム購入や塾通いなど子供の教育資金が大きいと言われていますが、この調査に見る限り、意外にそれらの回答は少なかったようです。ローン返済などマイホーム資金に自分の収入をまわすと答えた人はわずかに三人、子供の教育費（百科事典の購入なども含めて）の答も一割弱にとどまっています。一般に家計に入れると答えた人の中にも、マイホームや教育費のために使っている人はいるでしょうが、マイホーム・教育費を含めて家計に入れる人が三五パーセント（表3・総計の項）という

のは案外低い数字です。

これに対し自分の収入は自分の小づかいとして自由に使うとはっきり答えた人は二三パーセントにのぼっています。（半分家計に入れば半分こづかいというのはまずつと計算しました）

パート収入を家計に入れるか自分で使うかという対比を、夫の年収との関連で見てもすと（表3）かなりはつきりした傾向がみられます。

夫の年収四百万までは、家計に入れるという答が多数をしめ、四百万円代で家計とこづかいの割合が逆転、六百万円をこえると家計に入れるという答はゼロとなります。

この変化は当然といえるでしょうが、この傾向から察するに、パート収入を家計に入れている人も自分で自由に使いたいけれど現実がそれを許さないということであり、夫の収入がふえてそれで家計がまかなえるようになるまでそこでパートをやめるのではなく、仕事をこづけて今度は自分の収入を自分のこづかいとして使うというケースが多くなるのではないかと推定されます。

### ☆自己収入の使い方は今一步

自分の自由に使うという答の中で、子供の

手が離れたら大学に再入学するため貯金しているとか、資格、特技を得るための費用にまわす、現在の能力をさらにみがくための投資など、目的の明記してあるものは自己活動資金として別に集計しましたが、こういう主婦はまだ少数派のようです。

それでも、夫の収入の比較的低い層にも、きびしい生活の中で自立をめざして計画的に行動している人のいるのは心強いことです。その反面、「何となく使ってしまった」という答もいくつも見られました。「貯金」という答もかなり高率でこれは一見堅実ですが、もしかしたら「何となく使わなかった」だけのことかもしれず、自分自身の自由に使える収入がほしいという主婦の欲求が強まるのは大変

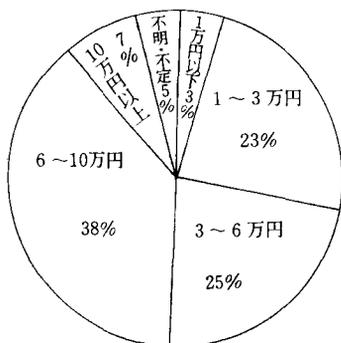


表2・主婦のパート収入

よいことだと思えますが、使い方は今一歩という気がします。

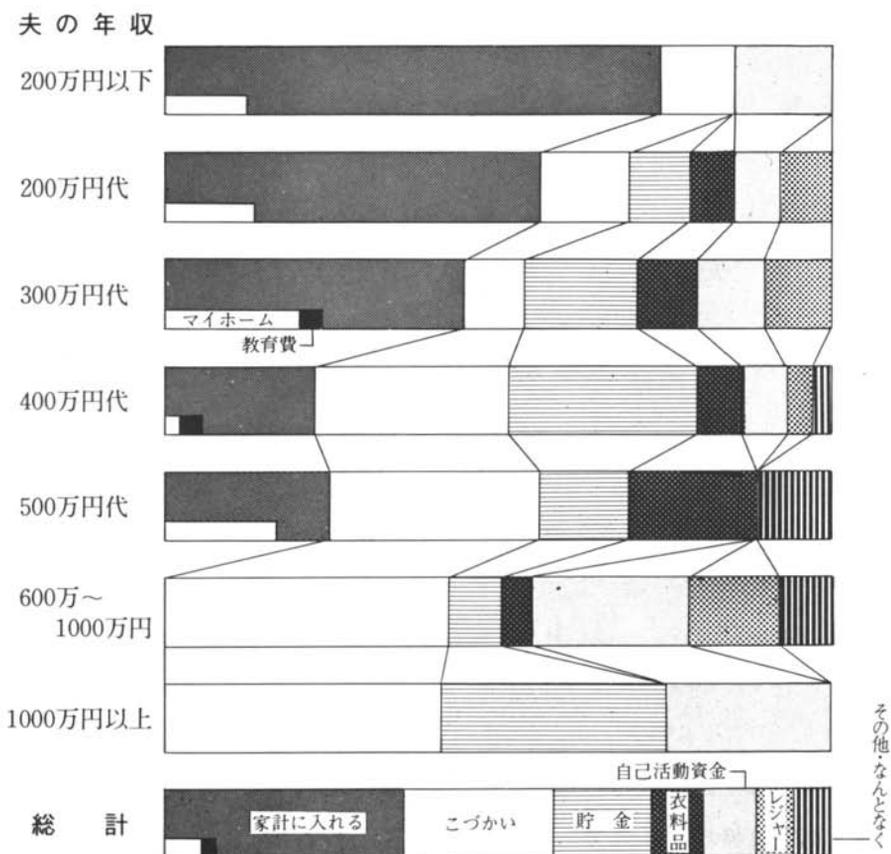
もつとも、洋服一枚にしる自分のかせいだお金で買う、わずかでも自分名義の貯金がある、ということだけでも、専業主婦時代とは違うものの考え方が開ける可能性があります。

市場調査の仕事で年収三六万円を得た五二才の主婦のかたは、「この年になってまさかこんな収入があるとはなんと嬉しいことでしょう！全部私のものですから」と欄外に書いてくれました。このかたの夫の収入から察すれば、夫の収入だけで相当豊かな生活が送れていると思われるのですが、どんな豊かな生活をしていても、百パーセント夫のみに経済的に頼っていた時には味わえなかつた解放感を体験することは、今後の自分の生活設計をたてる上のひとつの跳躍台となり得るものでしょう。

### ☆甘くない自立への道

もつともパート収入が主婦にもたらすささやかな解放感や充実感を、そのまま主婦の経済的自立、そしてそれにもとづく人格的自立へとつなげて考えるのは甘い幻想に違いありません。

表3・主婦はパート収入をどのように使っているか



一七才、週三日勤めて五万円ほどの月収を得ているある主婦が書いておられるように、「単に家計の足しにするためであればパートでも十分かもしれませんが、本当の意味での経済的自立を求めるとすればパートでは不十分です。既婚者が経済的自立を求めようにも現実には、その働く意欲は理解されず既婚というだけで再就職の壁は厚く、面接すら受けさせてもらえず、非情にも履歴書が送り返されてくる」のが現実です。

パートに出る主婦の側が、生活そのものを夫に全面的に依存することを当然と考え、生活をちよっぴりはなやかにしたり、ささやかなゼイタクを楽しむだけで満足している限り、社会の側が求める「低賃金の手軽な労働力」という主婦パートのイメージは変わらないでしょう。

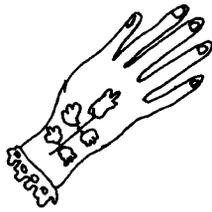
たとえ妻に月収十五万の収入があったとしても彼女が夫の年収一千万による生活が自分にとって当然のものと感じ、自分の実力のみによる生活などみじめで考えられないという態度であれば、せつかくの月収十五万も彼女の自立には結びついていません。パートタイムという職業形態そのものは、柔軟性のある社会には必要な、よいものだと思いますが、性別分業固定化にもとづき既婚の女の生活を

規定するワクである「主婦」と強く結びつけた結果、生活の経済的基盤をその夫たちに負担させたまま気軽に使い捨てられる労働力として利用されているところからさまざまな問題が生じているわけです。

「ダンナの給料だけで暮らしていけるんだから」というあちら側の切り札を無効にするためには、主婦の労働力をもっと質的に高度なものにして、需要を確保することが必要でしょう。

これは決してパートなどやめて無理してもフルタイムで働けという意味でなく、主婦というワクをこえた発想にもとづいて、自身の人生設計に積極的にパートによる自己収入というものを組みこんでいけば、パートは自立そのものにはならなくても、自立への契機にはなり得るのではないのでしょうか。

(四方愛子)



### 化粧品セールスで頑張る

山口洋子

ついた仕事は、P化粧品の美容コンサルタント。今迄は全く関心がなかった面だったので戸惑いもしたが、専門の勉強をしていくうちに興味がでてやる気さえ起きてきた。

私にとって魅力だったのは、自分なりのやり方で、時間のやりくりがつく事と、色々経験豊かな方に出会う事ができることだった。季節の移り変りの美しさ、厳しさも、この仕事を通して改めて感じている。

真夏のガラガラした炎天下を歩いていて、一本の木陰から来る風の爽やかさ。

この仕事のプラス面を見ながら、これなら続けていけると自信ができてきた頃、一つの大きな転機が起った。事務所の責任者が家庭の都合でやめてしまった。

責任者のいない事務所は認められないという事で、誰かが後任者とならなければならなくなつた。色々人と人選の結果、微力な私が引き受けてしまったのだから大変である。

一つの事務所を運営するには、事務員や保母の給料を出す為にも、全体の売上げを上げなければならぬ。

迷いに迷いながら無我夢中の毎日である。

(東京都 日野市)

## 雰囲気を売る

### マクドナルド

街角で見かける小さなアメリカ——そんな印象だったハンバーガーも、ここ数年の間に若者の食文化を変えるほど、日本社会にすっかり浸透してしまった。

このマクドナルドのスタッフ、正社員は店長とマスターのわずか二人で、あとは学生や主婦のアルバイトだとは、知る人ぞ知る。

初任給は一般に、時給三百九十円、一週間後四百二十円、と決してよいペイではないのだが、主婦の働く場所として、他の食堂や飲食店よりもはるかに人気があり、評判がいいのはなぜだろう。

要するに、お客を惹きつける今日的な雰囲気が、働くスタッフにとっても魅力となつて

## アルバイトを

## みれば



いるのである。使う言葉から、服装まで違うのだ。

一階のカウンターサービスをするメンバーはクルーと呼ばれる。紺のスカートに紺と白の縞のブラウス。

二階の椅子席で、子供たちのパーティーの世話などをするのが、スターと呼ばれる赤いスカートに白ブラウス、衿に赤スカーフをつけたメンバーである。スカートはミニ。この服装が似合うことが、マクドナルドで採用される条件の一つといえるかもしれない。

年令二十八才までと採用条件にはうたつてあるが、要は二十八才に見えればよいのである。高校生の娘のある四十に近い主婦が応募して、すんなり採用されたことさえあるのだ。

要するに、若々しく明るいかんじ、それが大切なので、身のこなしから歩きかた、これが世帯びみてノサノサ、ベタベタしてはまらずいのである。

時間帯をある程度自由にえらべ、適当な時間だけ働けるのも、主婦にとっては有難い。一週間前の火曜日に、次週の予定表を提出する。所定の時間に店に入り、タイムカードを押して制服に着かえる。

ただし働いている間は手を休めるな、お客がいなくてもコップをみがぐとか、テーブル

を拭くとか、自発的に動くように、と店側の注文はきびしい。「店の前の通りも店のうち」と道路のゴミも拾わせられるが、親からも受けたことのない嫉のきびしさが、むしろ快いと反撥は意外にない。言葉づかいや髪形、化粧にも、店長からの注文がつきまとう。

ハンバーグは作ってから七分経ったら廃棄するという。万事につけて、清潔、能率、若々しき——店全体にみなぎるダイナミズムとクールな雰囲気が、主婦を楽しく働かせている秘密らしい。安い給料で上手く人を使う秘密がつつり握っているマクドナルドの経営者は、さすが、と言うべきなのだろうか。

## 収入より支出が多い？

### ラボチューター

英語の多少できる主婦が、家にいて出来る知的な仕事——マイベースで時間が使え、自分の受けた教育も生かせる仕事——ラボのチューターといえは漠然と、カッコいいこうしたイメージが浮かんでくる。

昭和四十一年から東京山の手の婦人層を中心にやはりはじめたラボ・チューターの仕事は、しかし実のところ、特別な英語力は必要とはされていない。要するに、「ラボ」と名づけられたテープレコーダーを使って近所の子

# アの流行

## 洗って

供たちの英語の学習の相手をする仕事、と考  
えればよいだろう。

しかしこの仕事でおどろくのは、まず金の  
かかることである。「持ち出しばかりで収入  
が伴わない」とやめていく人が多いと聞くが  
内情を聞いてみると、それも不思議ではない。  
まず一万円也の保証金でラボ用のテープレ  
コーダーを借りる。ラボのテープは他の機械  
にはかからないようにできているのがミソ。  
借り賃毎月千円なりで四年間で自分のもの  
になる。

テープは一本五千円のを四十本程度買  
うはめになる。月賦でもよいというが、なん  
と全部で二十万円になる勘定だ。この他共催  
会費、本代などを毎月七百円なり。

研究会の参加費や他のラボグループとの交  
流、父母との懇談などの交通費や出費は全部

自己負担。夏の黒姫高原への三泊四日の合宿  
も、自分の生徒が出席すればついて行かざる  
を得ないが、この費用が三万円もかかる。

さてチューターの希望者は、まず一ヶ月半  
の講習を受ける。週一回約四時間、ラボの使  
い方、子供たちへの接し方、英語テープの暗  
誦などの指導がある。

生徒の募集は原則として自分の力でやらね  
ばならない。文案を考え、ガリを切り、近所  
の家へ配り、説明会を聞く。たいていは自分  
の家が教室だ。

ラボのシステムはテープによる指導が主眼  
だから、生徒も、チューターと同じ型のテー  
プレコーダーを家庭で使うのである。このレ  
コーダーを生徒に買い取らせていた時代もあ  
るのだが、それでは負担が多すぎる、と評判  
がわるく、現在の貸出しシステムになった。  
しかしテープは、生徒たちも、チューター同  
様のいい買い。

生徒が集まったら年令、経験、希望時間な  
どによってグループを作り、それぞれ一時間  
半ぐらいずつ、テープによる指導を行なう。

収入は、月謝、入会金それぞれ一人三千五  
百円のうちから、二千元がチューターにペイ  
バックされるとい。

ラボシステムが発足して十四年目。テュー

ター募集の広告がぼうぼうで目につく。つく  
のも道理、チューターはまず第一に、テー  
プレコーダーを、テープを、本を買うお客であ  
り、一泊一万円もする合宿への参加者であり、  
生徒を自分で探し、その生徒たちにテレコを  
貸出し、テープを売ってくれ、自分の家を教  
室に提供し、学習の手伝いをし、生徒一人あ  
たり千五百円を納めてくれる稼ぎ手なのだか  
ら。

人にものを教える仕事は、教えるほうにも  
実力がつくメリットがあるのだが、ラボ学習  
にはそのメリットもない。これは子供が好き、  
人づきあいが好きで、自宅に人出入りが多い  
のが苦にならない人の仕事。学習の相手はす  
るけれども、主眼はテープレコーダーとテー  
プの販売にある仕事と思つたほうが真実に近  
い。

とくに英語の学力もない主婦が、こどもの  
勉強の相手をして一ヶ月二千円の月謝をもら  
う、と考えれば、おかしくないのかも知れな  
いが、日本人の英語熱、教育熱とからめて、  
かつこい職業に惹かれる女の弱点を利用す  
る商法のたくみに、ただ呆然たる思いが残  
ると言つたら、言いすぎであらうか。

(兼松千恵)

# 目ざめよ パートタイマー



労組婦人部  
(希望により匿名)

和田好子  
わいふ編集部

出席者  
高橋久子  
労働省婦人少年局  
婦人労働課長



京王百貨店 菅野滋之

## 企業を支える主婦のパート

司会 このごろ、私の子供が大きくなったというせいもあるんでしょうけれども、最近昔の同級生のお母さんと街で行きあいましても、とてもパートで働いているという方が多くなりました。

それは統計的にもはっきりしているようですが、私、女性運動をしている人達の声を聞きますと、いわゆるライフ・サイクルのパターンにはまって、安価な労働力として使われているだけだという批判がある一方で、ともかくもそれが家庭から出ていく、一つの手がかりになるんじゃないか、一方的に批判はできないのじゃないか、とおっしゃる方もあります。

今日はさまざまのお立場の方に、それぞれ違った角度からこの問題を論じていただきましたと思うっております。まず状況がどうなっているかというあたりから……。

百貨店 私のほうは、以前社員が二千二百名おったんですが、最近だいたい少なくなりまして、人件費節約ということで、今約一割の二百名ほどがパートですね。

この三年ぐらいの間に、約百名ほどふえて

おります。勤務時間はだいたい、十一時から五時半ですね。

百貨店というのは、営業時間が十時から六時でございますが、土日ですと六時半、お歳暮お中元となるとまた延長になります。

パートの方にできるだけ多く出ていただきたいと思いますが、この営業時間帯が家庭を持つての方とはズレているものですから、なかなかどうも……主婦の方のご希望とは合わないというのが現状なんです。

そのへんのところを、うまく考えることができれば、もっとふえていくのではないかと思います。

私は今セピロの売場におりますが、パートの方は二名います。販売ではなく、出来上り商品のお渡し関係をやっていたいているんですが、こういうことは主婦の方だと慣れているというか……接客、苦情の処理など、非常に上手で、経験を生かした仕事ができるようです。

給料は、一般の社員のを所定労働時間で割りまして、それを時間給で出しておりますから、差別はないんですけれども、休みについては、一般社員より少なめになっております。

さっきの問題に戻りますが、百貨店というのはどうしても土日が忙しいので、できるだけ

け土日に手伝っていただいたいと思いましたが、主婦の方は土日はご家庭にいたいということで、平日をお望みになる。ここがむずかしいので……。

**労組** うちの職場は、現在従業員三千五百人くらいです。女の人は、パートさんを除きますと七百人ほどですね。

五、六年前には、二倍の千五百くらいいたんですが、中途採用も含めてここ数年間全く採用してなくて、女の人はどんどんやめていくから、減ってしまったという現象があるんです。

あとは正規の社員でなく、パートさんに全部切りかえていく。そういう方針なのです。七百人にパートさんが四百人ほどなので、総体としては四百人くらい減ったんです。会社は減量経営の方針ですから。

組合員も既婚者が二分の一、パートさんはほとんど全部主婦ですね。かつては、二十四才くらいまでにパートさんで入った人は、一二年まじめに勤めれば社員にされたのですが、最近はそういうこともなくなつて、二十一才くらいの人でもパートなんです。

そしてパートさんにも種類があり、常勤（フルタイム）、一時間おくれの出勤、あるいは一時間半おくれ、というように層があり、さら

にスポット・パートといいまして、ごく忙しい時間だけ、一週間くらい出て、あとは自宅待機、というようなものもあるんですね。賃金は勤続が長くても短かくてもあまり変わらず、四五〇〜五〇〇円くらいです。熟練を要する仕事なのですが……。

組合員が今年あたり五、六千円賃上げをしましたが、パートさんはごくわずかしかなりません。それでも仕事は非常によくやります。それはやはり経済的な理由があるためですね。**司会** では経験者として和田さん。

**和田** おとし、隣の婦人会長さんに頼まれて、近所の食品工場で一カ月半、働きました。今組合の方がおっしゃった、スポットパートですね。(笑)

近所では働いてない主婦はほとんどいないくらいで、その工場で募集してもなかなか集まらなかつたくらいなんです。水産加工では東洋一の大工場ということで、設備は整っておりますが、時給があまり高くない(四〇〇円)こともあったのでしょう。

まことに簡単な手続きで入れまして、住民票を出すじゃなし年なぞごまかしても分るはずなく、過激派に入られて爆弾仕掛けられてもしようがない(笑)ような手軽さでした。仕事はソーセージの製造と梱包、缶詰のレ

ッテル貼り、いわしだんごのバック詰め、いろいろありまして、次々回されて経験しました。一ばんヘンなのは、いわしダンゴに入れるネギ切りでしたね。(笑)

組合のお話どおり、皆さん経済的理由で働いていることは確かだと思います。食べられないから、ということではないんですが、子供の教育費、住宅ローンが大きな動機のように見受けましたね。経済的理由が薄弱な人ほど、長続きしないようです。

**高橋** 昭和四〇年代の初めに、婦人少年局ではパートタイム雇用について専門家会議を持ちまして、工場へも行き、使用者、組合、パートタイムの方からもそれぞれお話を聞いたりしました。

パートタイム雇用というのは、雇用形態としては、悪いものだから禁止しなくてはならぬ、というようなものではなく、むしろ女人にとって仕事と家事を両立でき便利な場合もあるんですが、わが国ではパートタイムというのが短時間労働という本来の意味ではなく、臨時労働者の代名詞みたいな使われ方をしている、そこが最も問題じゃないかと思うんです。

専門家会議でも、まずその定義が問題になり、パートタイム労働者というのは、一日、

一週、あるいは一カ月の労働時間が、他の労働者よりも短かい労働者であるとなりました。

したがって、その他の点では一般の労働者と変わらない性格を持つもの、と私どもは考えております。しかし実情はそうじゃなくて、八時間働いて、残業までやっているのを、パートタイム労働者と呼んでいる。雇用も不安定で、どうも臨時労働者の代名詞みたいな使われ方をしている。

本来的にはそういうものであるべきではないんだと、その時の会議で、先生方がしきりに言われたところですよ。

よく労働基準法など、パートタイムには適用されないのでしょうか、なんて言うところまでありましてね。そんなことはない、ちゃんと適用されるのです。

保険などでも、パートタイムでも一般労働者の四分の三ぐらい働いているものは、失業保険に入れるようにすべきだということで、新しく出てきた雇用形態ですから、そのころから保険のとり扱いなど整備してきたのですね。

しかし保険のとり扱いでむずかしいのは、たとえば健康保険などはパートタイム自身自分が被保険者になるより、夫の保険の家族としてとり扱われたいと望むなど、一人前の

労働者としての自覚が十分に成熟していない、という面があつたわけですね。

あなたはなぜパートを選んだのか、フルタイムになりたくはないかと聞きますと、予期に反してパートのほうがいいという答が返ってきたりするんです。なぜですか？ いつでも休めるから……というんですね。主婦というものは家庭の責任を負わされているからでしょうが、職場の拘束をきらうのです。拘束性が少ないこともあつて、パートタイムの労働条件は、他の労働者に比べるとよくないわけですね。

今やパートタイムは、労働者としてのきちんとした位置づけをしていくことが、必要だと思えますね。使用者の方にもそうお願いしていますし、パートタイム自身も自覚することが必要ですね。

### むずかしい職場への適応

**百貨店** 私どものほうは定年も一般社員と同じで、長くやっていただければほとんど待遇に変わりはありません。しかし募集のとき、採  
**用者の約二割は出てきません。**

**司会** 採用されたのに？  
**百貨店** そうです。

和田 それはきつとかけもちよ。

百貨店 そうだと思えますね。条件のいいほうに行っちゃったのです。それから出て来た人の中にも、やってみたら仕事がどうも気に入らない、となるとだまつて出て来なくなる人がいます。

司会 無断でやめちゃうのですか？

百貨店 そうなんです。(笑)

司会 無責任ですね。

高橋 そういふところが困るんですよ。

司会 採用時の年令制限は？

百貨店 一おう四十才です。

和田 私たちダメね。(笑)

司会 忘れっぽくなるから？ 値段をまちがえて売ったりしちゃって……。(笑)

百貨店 イヤ、やはり一日立っているというのは、想像を絶するきつい仕事で、高年令で入られた方はやめる率が高いのです。

高橋 なるべく中高年の女性を採用してくださるよう、お願いしているのですが、百貨店などでは、お客さまが若い女性を好むということがあるんじゃないですか。

百貨店 いやそうでもありません。私のいますセビロ売場なんかでは、年令の高い女の方のほうが、お客さまの信用があつてよろしいようです。ですから仕事によりますですね。

若いとき入られて、五十才過ぎた方などは、もう慣れるのでしょうか。若い人と変りなく働かれていますね。

高橋 主婦というのは、家庭を自分でコントロールしていただきますよう、それが急に職場の規律の中に入るのをおそらくたいへん苦痛なんです。ですから中高年婦人を雇ったら、職場適応訓練というのが必要なんです。(笑) 当人もよく考えて、働くとはどういうことなのか、家庭の状況からしてどういう仕事ならやれるのか、見通しをもつて就職してほしいですね。採用されたが一日でやめた(笑)では、採用したほうも困るし、やつぱり女は無責任だと、婦人一般がそういう評価を受けちゃつて、たいへん残念です。

司会 労組の方からは、パートさんは待遇が悪いにもかかわらず、たいへんよく働くというお話でしたが……。

和田 それはね、こうじゃないかしら……私たちは入つてみたらパートじゃなかったんです。アルバイトと呼ばれ、短期間だけ働くものなんです。この連中はいくら言われても無断欠勤はするし、主婦的無責任ムード(笑)があります。その中でよく働く人を、選んでパートに昇格させるんです。私もなりませんがと言われたけど(笑)パートになれば

社会保険もつき、ボーナスも出るかわり、残業もしなければなりません。この人たちはよく働きますよ。責任感も強いです。

司会 アルバイトというのは、さつき労組からお話の出た、スポットパートですね。

労組 そうだと思います。

高橋 スポットパートつて言葉、私、はじめて聞きました。(笑) うまい表現ですね、日雇労働者なんて言うよりは……。(笑)

和田 そして私の行った工場でも、もう正社員は採らない、本社で大学卒を採るだけで、あとはみなパートに置きかえているんです。

労組 そうですね、うちも同じです。

高橋 臨時的なんじゃなくて、長くパートで働いている人がいる、ということですよ。

労組 そうです。勤続十何年、パートで働いている人がいますが、パートである以上退職金はつきませんし、待遇わるいんです。

司会 その人達は正社員になりたいのでしょうか？

労組 なりたいんです。しかしなれない。

和田 高橋さんがおっしゃった、フルタイムになりたくない、というのはアルバイトの段階でしてね、パートとなれば覚悟あつて働く人たちで、まったく一人前の労働者ですから、正社員になりたい。しかしその道は全く閉ざ

されているのです。

**労組** 会社はしません。パートにしておいたほうが安上りだから。

**司会** パートと正社員の待遇の差というのは退職金が出ない、それから？

**和田** 私のところでは、パートは一年契約でしたね。一年たつて、やめてくれと言われたらやめなきゃならないんです。

**労組** 貸家の契約みたいなものです。(笑)

**和田** 居住権もなし、もつと悪い。(笑)

**高橋** それはね、契約期間を定めるなら、一年以内なんです。一年以上になりますと、無期限になるのです。一年以内か、あるいは期間を定めないうで、五年、六年拘束するといふのはできないんですよ。

**司会** 法律で？ はじめて知りました。

**和田** 分つた、昔の年奉公みたいなのはダメということですね。

**高橋** そうです。長く使うなら期間を定めないで使わなければいけないんです。

パートタイマーの場合、二カ月、三カ月といたのもありますよ。次々契約を更新しまして、六年も七年も使っている。

ですからね、フルタイムにも常用と臨時とあるように、パートタイムにも常用と臨時がある。こういうふう整理されるんですよ。

ですから六年も七年も勤める人であれば、パートタイマーでも常用労働者として扱わなければいけない。こういうことなんです。

それなのに短期間契約を更新していつて、イザ景気が悪くなると、組合員をクビにするのはいへんんですが、パートタイマーは契約を更新しませんよ、と。そういうふう考えられているんですが、法律的に裁判までもつていきますと、長く働いている人に、契約更新を拒否するには、それ相当の理由が要るのだ、と考えられておりますね。基準法でも、解雇の場合三十日前に予告するか、予告しないとときは三十日分の手当を払うことが必要なんです。パートタイマーも長く勤めている人にはそういうことが必要なんだ、ということになりますね。

**労組** はじめは、家庭から職場へ移って慣れませんし、心配だし家族の協力もないしということ、短時間、短期間を望むということはあるのですが、次第に自信もつき、一人前の労働者として働くようになって、会社はそれだけの待遇をしないんですね。

**高橋** それが一ばんの問題です。賃金はそれほど低くない場合でも、退職金、ボーナスなどで差がつく。意欲をもって働いている人を、パートタイムの名のもとに、それにふさわし

い処遇を与えないというのが、一ばんの問題じゃないかと思えますね。

### パートは従業員にあらず？

**労組** パートタイマーがよく働くというのは、クビ切りは自分たちが一番先だと思うので、切られないようにきちんと働き、休まない、ということがあるんですよ。

**高橋** パートの人たちの組織化の問題というのは、どうなっているんですか？

**労組** うちがユニオン・シヨップで、会社の従業員はすべて組合員ということなんです。パートの人は従業員扱いしないです。

パートは違う、従業員ではないんだという大々の認識があつて、組合としてはなれない。(組合員に)もんだと定めているようですよ。

**高橋** じつさい働いている人が、従業員じゃないと？

**和田** じつにおかしな話ですね。

**労組** そういうことになっているんです。

**百貨店** うちのみな組合員です。やはりユニオン・シヨップですけど。

**和田** じゃあなれるんじゃないですか。

**高橋** 法律上パートタイマーが組合員になれないということはありませんよ。おっしゃつ

たように、ユニオン・シヨップをとつて従業員はすべて組合員というのであれば、むしろ入らなきゃおかしい感じがしますね。

**労組** そうですか……。でもパートが組合員になつてるところ、非常に少ないんじゃないですか？

**百貨店** 百貨店関係はみんな入っていますね。

**和田** 百貨店はわりに安定していて、パツタリものが売れなくなることはないと思いますが、生産工場ではしょつ中生産調整が必要でしょう？ それで会社ばかりか組合まで、パートを安全弁に使つてゐるんじゃないですか。組合も自分たちの身分を守るために……パートが切られれば、組合員は安全ですからね。

**高橋** ほんとうに、他の労働者とまったく性格が違わない労働者として、パートタイマーも扱つていかなきゃならないということ、法規の適用の面でもそうだし、使用者にもそれを指導しているし、組合もパートタイマーを組織して、その労働条件の改善にとり組むということ、必要ではないでしょうかね。

**和田** 今日の話は大企業ですが、中小から零細企業で働くパートとなれば、これまたもつとたいへんな問題が出て来ますよね。

それから、私を感じたことは、女が働くのはやはり家計上の理由が多いということでは

ね。すると、現在社会的には夫が一家を扶養するタテマエになっていますが、養えるだけの収入を夫が得ていない場合には、妻が働く。これは一見悪いことのようにですけど、女が自立するには、夫の収入が低いことが必要と

いいますか、夫に妻を養うだけの賃金を与えないことだという気がしたのです。男が高賃金という特権を持つてゐるのは、家族を養うという前提があるからで、そのため女が働け

ず、社会的地位も低くなる。男の賃金をもつと女に回して、双方働いて、生活すべきだと思ふんです。で、パートの賃金はたしかに低いんですけど、家計を支える不可欠の役割があるとすれば、ここからその方向に、展望が開けるんじゃないかと思つたのですが……。

**労組** むしろ女の賃金の低い分が、男に回つてゐるんじゃないですか？ それにだいたい低い賃金を、男女で奪い合うというのはどうも……。

**和田** それは全体の水準を上げることは必要ですよ。

**司会** 素人的に考えますと、これから高度成長といふのはそんなに望めませんでしょう。仕事に限られてゐる中で、女が家から出るとなれば、限られた仕事の量を男女で分けあうことになる。算術的に考えても、男に高い賃

金は出せなくなるし、また女が自立をめざすとすれば、亭主の賃金を削つても……全体で三十万の収入なら、男が二十万、自分が十万

じゃなくて、男が十五万、自分が十五万ということを望むんじゃないですか。頼りない亭主でもいい(笑)自分が自立すれば。

**高橋** 雇用の機会を一定と考えて、これを男女でうばい合うのが適切かどうか。それだとかえつて、男が働くほうがだいいだから、女は家庭に帰れ、という人も出てくるんじゃないでしょうか。

男女とも働きたい人にそれだけの雇用機会を保障する、そういう経済成長のあり方が考えられなければいけませんね。ただ、そのときに、一人の人(男)がうんと長く働くというようなことは、今の雇用量を分け合うという観点からもそうでしょうが、人間の働き方としていい形ではないと思います。だから労働時間を短縮して、残業が恒常的に行われるような労働条件を改めていく。そうすれば家庭生活もつと健全になるんじゃないですか。

**和田** それを言いたいわけなんです。現在のうちに、男が高収入は得るけれども、朝から晩まで働いてゐるというのでは、奥さんは家庭から出るに出来ませんもの。

★わいふ家庭科・男女必修★

# メーカー直販 衣料セールの秘密

「○○レイヨン社員ファミリースール」

「△△商会株主優待セール」

いつのころからか、ほうぼうで、こんな衣料品セールがさかんに行なわれるようになりました。

友だちにさそわれたり、ご亭主がどこからか入場券を手に入れてきてくれたりして、この手のセールに出かけたことのある方は、ずいぶん大勢いるのではないでしょうか。

入場券には「午前」「午後」の区別があったり、「一枚お一人さま限り」とうたつてあつたりして、誰でもスイスイ入れるパーゲンとはわけが違いますよ、という趣きが、いかにもねうちありげに見え、有難味がいや増す心地で、せめてうちのヒト、○○レイヨンの社員であつてくれたらなア、と嘆きたい気分が誘われるのですが……しかし正直、こうしたメーカー直販のセールは、ほんとに社員優待のための、会社のありがたいお志なのでしょうか。

売っている品物もメーカー直販とあらば、小売のマージン分だけは確実に安くついているはずですが、ほんとにそれだけ安いのでしょうか。

衣料品メーカーH社の幹部社員Mさんに、取材してみることにしました。

## 作り過ぎの投売作戦

——メーカー直販の株主優待セール、あるいはファミリースールなどというものが、最近よく催されるようですがどうしてでしょう。M まずデパートのパーゲンのことをお話ししましょうか。

昔は既成服といつたら限られた種類のものばかりでしたが、最近では流行が多様化していますし、TPOなどと称して消費者の要求が非常に複雑になつてきた。メーカーの側にもそれに合った商品を提供する義務が出てきたわけですね。

それだけに売れ残る商品も多い。一般にそういう売れ残りの品を集めて行なうのが、いわゆるデパートのパーゲンセール、これが昭和四十年代にさかんだつたんです。

ところが四十年代も後半、四十八年ごろになりますとね、今のようなメーカー直販のセールが大々的に行なわれるようになった。

たしか最初にやったのは、レナウンさんだつたと思いますよ。

もちろんそれまでも、株主を対象とする直販サービスというものはあることはあつたのですが、四十八年以降のセールは性質が違

うんです。

まず生産過剰。不況の影響で、在庫がゴマンと出た。この在庫を何とか処分したいわけですね。ところが名の通ったメーカーは、自分のところの品物が、デパートのバーゲンなんかに出るのはいやなわけです。

ブランド名がついているから、それを投げ売りしていると思われるのは避けたい。イメージダウンですからね。

第二に、直販でやればもちろんデパートへのマージンはいらぬ。お客さまは安く買えメーカーは損をしない。

それからデパートのバーゲンで、同じデパートを通じて小売値で売ったものを、値下げして売るといふことは、高いねだんで同一商品を買ったお客さまに対して申し訳ない。

ファミリーセール、株主優待セールなどだったら、そのおそれは少ないわけです。

最後に、いろんな関係から、メーカーに直接商品を見たい、買いたいと言って来られる方たちに、社員がいちいちサービスしている時間と手間、これが省ける。ファミリーセールのとき、ごらんください、と一括して来ていただけますからな。

まず何といっても、直接の原因は不況の影響だったわけですが、五十二年ごろまでには

名のあるメーカー、レナウン、樫山、東京スタイル、サンヨーなど、みんなこの手のセーラーをやりましたね。

——すると商品はやはり、売れ残りのものばかりなのでしょうか。

**M** まあそれが主ですが、次期シーズンもので、どうも動きの悪そうなもの、というのも出ています。とくに紳士ものは、婦人服と違つて一年経つても、あまり型が変りませんから、まだまだ商品価値はあるわけですよ。

——デパートのバーゲンで、よくバーゲン専門の粗悪商品があると言われていますね。そういうのは扱わないでしょうか。

**M** これは扱っていません。いったいに最近は一時よく見られたスーパード向けの製品というの、下火になつてきているんです。お客さまの目が肥えたのか、そういうものが売れなくなつてきているんですね。従つてメーカーも作らない。最近では全くといってよいほど、作られなくなっています。

ただし流行おくれの生地なんか、一括して安く売られる、ということはありません。あなたのいま着ていらつしやるブレザーの、ジャージーの布地ね、これなんか流行おくれで最近はまだたく扱われていないんです。今年あたりポリエステル製の薄い軽いのがやりです

からな。

そういう生地を二束三文に買つて、婦人服メーカーが安い服を作るといふことはあり得ます。

——製品が高級化している？

**M** いったいに、消費者が非常に現実になつてきましたね。洋服の着方の基本をわきまえてきた、といえますか……：以前のように、ちよつと見てくれが良ければ何でも買ひ込むというのではなく、着やすさ、仕立てのよさ、材質のよさなど、いろいろな意味で上等のもの、長く着られるものを吟味して買う、というようになってきます。それだけにももちろん値段は高いものが多いですから、点数は多くは売れません。ファッションをどうのこうのと気にするのは、むしろ流通段階の関係者のほうが多いんですね。

### なぜ誰でも入れないのか

——株主優待セールなどと銘打つてあるのはほんとに株主しか入れないのでしょうか。在庫処分の意味があるのなら、誰でも入れていいように思うんですが。

**M** 会社によつて、たしかに非常にきびしく入場者を制限しているところもあります。

ある会社などでは、どんなにたくさん株を持っていても、一人一枚に限っていいましたから、優待券欲しさに株を分割して名義人の数をふやした人がいた、という話までありましてね。切符を持っていない人は、例え顔見知りでも入れない、などということもありました。

優待券に社員の判を必ず押すところ、会場が混んでくると入場制限をきびしくするところ、この反対に取引先の会社に券を一括してドンと配ってしまうなどという、比較的ルーソなどところなど……まあいろいろなんですが要は株主、あるいは社員家族の優待などということとは二の次で、むしろデパートに対する対策としてこういう形をとっているんです。

何しろレナウン、檀山、東京スタイル、サンヨー四社で、デパートの全取引の過半数を占めているわけですから、こういうメーカーがパーゲンをすれば、デパートも無関心ではいられません。やめてくれ、と言いたくもありません。実際のところ、小売を通さずにメーカーで直販をするということは、一種の自殺行為ですからね。いいことではないんです。いいことではないと知りながら、営業面からはどうしてもやりたくなる。ことに不況のときはやらざるを得ません。

四十八年からこの形がはやりだしたのは、そういう理由があるわけで、また、毎年やりたくなるだけの実益があるんですね。

しかしデパートの手前恰好がつかないから「社員家族」あるいは「株主」優待セールという名目をつけて、入場者も実際には相当、



きびしくチェックする形をとるんです。

——小売が入らないわけですから、当然おねだんも安いでしょうね。

**M** 衣料の値段は大ざっぱにいつて、一〇〇のうち三分の一が生産費、三分の一がメーカー

のマージン、あとの三分の一が小売のマージンということですから、まあ、安いことは確実です。

ことに五十年度は企画した商品のうち六〇パーセントしか売れないという状況でしたから、残りの分はたいへん安く売られているのではないのでしょうか。デパートのパーゲンセールでは、パーゲンといっても小売の分のマージンが最低二十五パーセントは入っているはずですから。

ただしこういう乱売時代のセールのやり方は、始めたころに比べればずいぶん下火になっているんです。ばか安い値段のものではなくなっていると思いますよ。というのは、一時の生産過剰がなんとか整理されて、メーカーが消費者の動きを慎重に調査しながら、製品をコントロールするようになってきていますから。

消費者のほうも、さつき言ったように安ものに飛びつかなくなっていて、流行よりも質のよいもの、量産ものよりもブランドもの、というようになっていきますね。まあ直販セールも四十八年からこの四、五年、さかんでしたが、このへんでまた違う形を取るようになるんじゃないか……と、私などは思っていますね。

## 戦国時代は終り、さて次は？

——たしかにそんな感じがいたしますね。

じつは私も、サンヨーの家族優待セールに行つた経験があるんですが、最初のときはたしか昭和五十年、竹橋の、あの広い科学技術館が超満員の大混雑でして、「危険ですからさきいらした方はお早く出てください」とか、「今から入れかえをいたします」なんて、まるで映画館もどきのさわぎだったんですね。やつとのもので六千円のしっかりしたレインコートを一着買いましたけど……。

中一年おいて五十二年の春、この時はそんなに混雑はひどくなくて、ゆっくり品物が選べたのでオーバーを二着買いましたけれど、一着は一万四千円のリバーシブルの薄茶のコートで、まあまあ値段だったんですが、もう一着はらくだ色のダブルブレストのコート、これがどういわけか千五百円の値段がついていたんです。おどろいてしまって、値段につられて買いましたけど、今でも重宝に着ています。

今年は三回目で、取材がてら行ってみたんですけれど、以前に比べるとお客も半分くらいでしたし、品物もあんまり安くないんです。

ね。あまりぞつとしないブレザーの上下が一万円、なんていう値段で、掘出しものがなかつたので手ブラで帰って来てしまいました。

**M** そうでしょう。バカ安い掘出しものというのは、だんだんなくなっていると思いますよ。一方には紳士服の流通卸し売センターなんていうのもできていますから、メーカー直販セールは少しずつ変わってくるはずですよ。そのかわり、値段は高いが品質のよいものを、過剰生産にならないように作る。慎重に消費者の動きを調査して、他のメーカーのシェアとダブらないように考えながら生産していく。

今やそういった時代になってきたと思いますよ。安い、というイメージで売れる時代ではないんです。レナウンなどはもう、まったくそういう方向に行っていますね。

——売れ残つた商品は、最終的にどうなるんでしょうか。

**M** 倉庫に保管しておいて、セールのたびに出していくんです。少しずつ値段を変えましてね。

——それでも売れなかつたものは、捨ててしまふんですか？

**M** それはありません。ネームを削つて輸出向けに使うそうです。

## ☆

取材をしてみて、衣料の世界はまさに戦国時代を過ぎたところ、との感を深くしました。乱戦、混戦をくぐりぬけ、生き延びたメーカーはほっと一息、めいめいの領地を固く守つて一所懸命のかまえですが、乱戦にまぎれて竹槍で明智光秀を突き殺した農民よろしく、千五百円也のオーバーを手に入れる絶好のチャンスなどは、庶民の手から離れていきそうです。高級化というときこえはよいのですが、よいものはねだんが高く、安いものは粗悪というのでは、消費者は浮かばれません。

ヨーロッパのデパートで衣料を買うとおどろくのですが、安物と高級品の差がひどく、安物は徹底的に品質が悪いのです。それにひきかえ、日本ではまだまだしっかりした品物が安く手に入ります。

消費者が安物に飛びつかなくなつたといつても、生産調整が行きすぎて、よいものを手に入れようとすると必ず高いお金を払わなければならぬという状態は、決して嬉しいことではありません。

衣料安売りが去って、メーカーの生産調整の前に、消費者の利益を守るためチエをしぼらねばならぬ時代がきたようです。

(田中喜美子)

## 自宅で開く サロン風お菓子教室



倉橋澄子さん

渋谷区にお住いのお菓子作りの先生倉橋澄子さん（50才）に初めてお会いして、二言三言言葉をかわした時にもう、それまで想像していた、きつとお若い頃からお料理の好きな方に違いないなどという私の貧弱な発想は、見事くつがえされた。

国文科出身で、私立高の教師の経験もあり、家事はむしろ嫌いな方で、十年位前までは、お菓子など買うものだと思っていたという倉橋さん、その彼女がどうしていま、こんなに素晴らしいお菓子の先生になっていらっしやるのか。

「ま、わたしのような者でもできるという点ではご参考になるかもしれないね」と切り出されたお話はこうであった。

きつかけはなにげなくやってくる

若い頃から主婦業だけでは飽きたらず、いつも何かしたい、働きたいと心がくすぶり続けていたことは事実である。しかし、子供ができて教職をやめてからは、育児や二年間の渡米生活など煩雑な多忙さの中で、洋裁やらPTAやら色々手がけながらも、これというものが見出せないでいた。そのうちに子供も大きくなって食欲も旺盛になり、暇もできだし、公害問題もぼつぼつ叫ばれだし、夫は人一倍食物の味にはうるさい人なので、手づくりで安全な美味しいものをたつぷりと家族に食べさせたいという欲求が、倉橋さんの胸の中にふくらんできた。

友達においしいクッキーを作って生計を立てている人がいた。倉橋さんはその人に時々注文していた方なのだが、ある時、その友達が病気になるって、以前のようにはお菓子作りを精を出すことができなくなってしまった。倉橋さんは、あのクッキーのふくよかでデリケートな味が、又それを作り出す技術が、この

ままここで葬り去られるのがしのびなかった。あつそうだ、自分がそれを引き継ごうと思いついた。友達は喜んで教えてくれた。

これが倉橋さんのお菓子作りのそもそものはじまり。今から十年程前のことである。

この時はクッキーだけ習えればいいと思つていたのだが、友達は折角だからと、他のケーキ類などいもいくつか教えてくれた。まだその頃はできばえも決して上々とはいかなかったが、子供達がこげたクッキーでも顔をほころばせて沢山食べてくれるのを見ると無言の励ましを受けるようで、作る回数もふえていった。それに比例して段々と腕の方も上り、お友達にあげても喜ばれるようになってきた。これ以上何事もなければ、折にふれて美味しいお菓子を作つて喜ばれる奥様というだけで終りそうであった。ところが、またここにお友達が一入登場する。今度は、洋裁が好きで遂に洋裁教室を開いた人。その彼女が、倉橋さんのお菓子に魅かれて、「洋裁とお菓子作りの技術の交換をしましょうよ」と話をもちかけてきた。

こうして、共通のお友達四、五人が月一回倉橋さん宅に集つて、ささやかなお菓子教室が定期的にもたれることになった。最初は、十ぐらいのレパートリーで始めたのである。

が、やはりこうなると積極的に色々なアイデアを取り入れるようになった。巷のお菓子教室にも通つてみたりした。今にして思えば、ただ自分の趣味や家族のためだけだったら、こんなな一生けんめいにはならなかつただらう。ここでまた一つのチャンスが、倉橋さんの腕をみがきあげる助けをしてくれたのである。今から七年程前のことであつた。

### たのしい社交の場を兼ねて

こんな形の教室が一、二年続いた時、倉橋さんは今のお家に引越した。そしてそれを機にこの技術交換は一応ピリオドを打つことにした。

しかしそれではおさまらなかつた人達が何人かいたのである。その人達は、倉橋さんのお菓子教室がこれですぶれてしまふのが惜しくて、遠くなつたのに引越先のお家にまで通つて来た。そしてそれからは、口コミで生徒さんは増える一方。何一つ宣伝もせず、お宅には看板一つかかつていないのに、今ではこの教室に集つてくる人が三十人。それぞれ旧友のグループとか、PTAの仲間という風に親しい人同士で固まつたクラスが五つできてゐる。

その五つのクラスが月一度ずつ集るわけだから、倉橋さんは毎月五回ずつ教室を開く。最後の週はあけることにしているので、大体週二回ずつになる。「お金と時間と気分に余裕がなければお菓子は作れない」という倉橋さんの言葉通り、集つて来る人達は四十代の人を中心だが、年代の中は二十代から六十代に亘り、母子二代という人達も多い。

当日は、十一時半頃に集り、材料や分量、作り方の説明を受けてメモを取つてから、倉橋さんの準備しておいた材料を使って、みんなで共同で一つの大きな作品を仕上げる。いつも焼き菓子と冷たいものという風に、取り合せよく組み合わせる二種類は作るが、簡単なもの場合は三種類作ることもある。

でき上るのが大抵二時頃なので、それから、そのお菓子を中心にティーパーティーが始まるわけである。それがまた楽しい。色々なおしゃべりに花が咲くが、多くの場合、主婦のかかえている共通の問題、例えば教育問題とか、老人問題、老後の話などが、最も深い共通の関心をひくようである。面白いことに、学校のクラスと同様に、それぞれのクラスが独特の雰囲気をもっており、出される話題や導かれる結論も、微妙に違つてゐるようだ。こんなとき、それとなく話題をリードした



り、全員が会話にたのしく入っかけていけるように気を配ったりする役目も、倉橋さんは喜んで引き受ける。はるか昔の教職の経験も、今まで数十年間さまざまな人生体験にふれて得たものも、問題にぶつかるとに自分の頭でとことん考えてつちかかってきたものも、いま色々な場面で役に立っていてくれるような気がするという。

日頃雑然とした仕事に追われている主婦に、実益と共に、ゆったりとした楽しいひと時を作ってあげられるこの仕事、主婦の狭い世界を少しでも広げられる場を提供できるこの仕事に、倉橋さんはやつとさぐりあてた充実感を抱くのである。

## モットーは簡単でおいしいもの

今や、お菓子のレパートリーも八十位に増え、各クラス毎に全種類一通りできるように表を作り、すませたものから消していくことにしている。月に一度なので、一般の週一度の教室の半分位を、二年位かかっただのんびりとやっけていく。二年やればもう、一通り基礎は終了ということできりをつけ、やめたい人はやめ、続けたい人は続ける、という風になっている。

でも、お菓子の作り方を覚えることよりも社交が目的で来ている人達中にはあって、そういう人達は、長い人で四、五年も続けており、同じものでも、作る度に新しい発見があると、喜んで作っているそうだ。

入学の時期も各人皆バラバラなので、名簿を作って、誰もが一通りの基礎は覚えられるよう気を配っている。メンバーを見ては、献立を前日にたて、準備をしておく。

お菓子教室といえはば、お台所は改造なさったのかしらとか、設備費にはどの位投資が、倉橋さんの場合は、別に教室用にお台所を作り直されたわけでもなければ、これとい

った特別の設備もない。ただボウルとか泡立器の数は、普通の家庭より多めという程度。

これは、とりもなおさず、倉橋さんがいつも、どここの家庭でも作れる簡単なもの、使いたれた器具を使って、誰でも手軽に作れるものを取り上げて教えてこられた、ということをも意味する。お店に売ってあったり、婦人雑誌についているような、ゴテゴテと飾りたてたものは、あまり作らない。あくまでもホームメードらしい、素材で簡単な、しかも味だけはとびきりおいしいものを……これが、倉橋さんのモットーなのである。

ときどき、パーティーやおみやげ用に、作ってほしいと頼まれて、市価の半値位で引受けているし、年に一度、全クラス合同のケーキパーティーも開く。その他にも生協の世話役も続けていて、確かに多忙ではあるが、それは与えることの喜びに裏打ちされた、優雅な多忙さのように見受けられた。

## 一日、入学の記

今まで聞いてきたお話から、この教室の人気の秘密がなんとなくわかるような気がするのだが、それをじかにつかみ取りたくて、ある日、この教室を見学させて頂くことにした。

その日のメニューは、ドイツ風フルーツケーキといちごのアイスクリーム。伺った時にはもう、下ごしらえはそれぞれ分担してなされておき、ケーキのたねを大きなボウルでこしらえているところであった。

いわゆる教室然とした固苦しい雰囲気は全くなく、気軽なおしゃべりと笑い声の中で、作業が進められていた。勿論この間、先生のアドヴァイスやさまざまな質問も自由にとびかう。

型をオーブンに入れる直前に、強く、何回かテーブルに打ちつけて、空気を抜くと同時に表面を平らにする、先生のなれた手つきに一同の視線が集まる。やはりこの辺の呼吸は、お料理の本を読んだだけでは、なかなか体得しきれないところだと感じた。

さて、アイスクリームは冷凍庫に、ケーキはオーブンに入っている間に、手わけして後片付けとお茶の準備がなされ、一段落するとみんなテーブルについて、この日のメンバー八人の紹介という段取り。

「今日のクラスはお若い方ばかりなんですわ」という私の言葉に、はじけるような笑い声はね返ってきた。それでもう一度、よくよく観察してみると、二十代位の本当にお若い方

も、もしかしたら五十才に手の届きそうな方も

いらして、年代の中はかなり広いのかもしれなかった。しかし、全体として、やはり若いのだ。とても若々しい雰囲気、かもし出されているのだった。中には、休診日を利用して来てみえる女医さんの姿もあった。

そうこうしているうちに、出来上ったお菓子が運ばれてきた。切りわけられたケーキは、中に色々なドライフルーツが入っているので、切り口が美しい。粒チョコレートも、溶けて流れていないのが不思議。焼きたてのしつと

りとした味は格別であった。甘さが程よくお

さえられていて、いくらでも頂けそうを感じ。お店に売ってある、あのパサパサしたパウンドケーキとは全然違うのである。

食べながら、この教室ならではの魅力が、色々と生徒さんの口から出された。

まず、美味しいこと。特に甘みがちょうどよい点だが、これには、倉橋さんの蔭の苦労がものをいう。前もって、砂糖の量を109單位で増減して五十回試作し、一番適当な味を決めるのだそうだ。

次に、作り方に手ぬきがあること。この点も試作の時に色々試してみても、結果が同じならば、できるだけ手間を省き、簡単にするといい。

更に、月に一度という、ゆとりある日程、都合の悪い時は別のクラスに入れてもらえるから、気軽に休めること、月謝が、申し訳ない位安いこと、雰囲気がいよこと、あとの話が楽しいことなどがあげられた。

☆

帰り道、この日食べたお菓子と、倉橋さんのお人柄が重なって、胸に焼きついているのに気付いた。それを一言で表現するなら、「洗練されていて飾り気がない」そんな印象なのであった。

(早川裕子)



# イギリスとの出会い②

早川裕子



## イギリス商人気質

イギリスの店に入って買物をしたことのある日本人のほとんどが、イギリスの店員の無愛想、非能率、計算の下手さにあきれ返り、このためにイギリスが嫌いになってしまふ人も、少なくないようです。私も彼等の売る気のなさに腹立たしい思いをさせられたことが何回かありますし、イギリスで知り合ったドイツ人やオーストリア人も、この点では大いに悪口をいっておりました。何の関係もない他人に対しては、全く無愛想になってしまふ日本人が、一たん売り手となって買い手と向い合うと、とたんに愛想が良くなってサーヴィス満点に変身するのと違って、売り手となったイギリス人は、依然として誠に泰然自若として、「買ったければ買って行け」という態度を崩そうとしません。一歩店に入ると神様になるのかどうか知らないけど「いらっしやいませ」と時には二人も三人も店員が出てきて、愛想よくサーヴィスにこれつとめられることにならされた私達日本人は、このためにすっかり気を悪くして、店を出ると同時に、「何という不愉快な国だ！」なんてつぶやくことになるようです。私も渡英して間もない頃、ふと立ち寄った電気屋で、ミキサーを買おうかと思っただけで、今高い所に置いてしま

っていても出しにくい。五十ヤード程先にもう一軒電氣屋があるから、そこできいてみてくれないか」

なんていわれた時には、イギリス商人のものぐさぶりと商魂のなさにあきれ果てたものですが、しばらく暮すうちに、彼らの商魂の欠如故に感じる、イギリスの店の何とも安らいだ居心地の良さに気付き始めました。

ある時、私はさる文房具店で、アルバムを買おうかどうか迷っていました。それは、メイドインジャパンでも高いので、必要なだけけれど、ばからしい気がしたからです。すると、傍に立ってじっと黙って見ていた店員が、やおら口を開いて、

「あなたね、そんなに迷うんだったら、今日の所はやめときなさい。家に帰ってもう一度よく考えてみて、やっぱりどうしても欲しかったら、また来ればいいじゃない？」などと言うのです。私は、日本のどんな商店でも、店員からこんなに買い手の身になってくれたアドヴァイスを受けたことは一度もなかったので、大変とまどいながらも大喜びで、その親切な提案に二つ返事で従ったことはいうまでもありません。

クリーニング店へ衣類を持って行っても、点検して、「これはまだそんなに汚れてないから、もう少し着てから持ってらっしゃいよ」なんていわれたり、「これは家でも洗えるから、節約のために家で洗ったら？」などという、日本ではとてもあり得ないような忠告を受けて、

微苦笑しながら持ち帰ったものでした。

日本では、デパートならとも角、普通の商店では、あれこれ選び考えた挙句、「やっぱりやめときます」なんてことは、なかなかいえないような雰囲気だし、もし勇気を出してそういつて店を出たとしても、どうしても後味の悪さが残ってしまうのに、イギリスで、さんざん迷った挙句、「やっぱりやめとくわ」といつても、「OK、サンキュー、バイバイ！」という答が、いともこやかに、さりげなく返ってくるだけで、誠に爽やかな気持ちで店を出ることが出来ます。

この違いは、押し売りやセールスに関して、全く同じように言えます。日本に帰って、日常生活の不快指数を上げるもの一つに、この訪問販売の人達の態度がありました。家で何か仕事をしている時に玄関のプザーが鳴り、仕事を中断して出してみると、何か売りに来た人が立っている。ここまではイギリスも日本も同じです。それが不要なものであった時、「ノー・サンキュー」と一言いえば、「OK、バイバイ」とか、「サンキュー、バイバイ」とか、爽やかな笑顔を残してすぐ帰ってくれるイギリスの場合は、こちららも軽やかな気持ちのまま、又仕事を続けられるのに、日本の場合だと、いらぬものをいらぬというだけなのに、どうしてこう後味の悪さが残り、前と同じような気持ちで仕事が続けられなくなってしまうのでしょうか。いらぬと言っても何だかんだと勧

められ、それでもいらないと自分の気持を押し通すと、最後は大変不機嫌な態度になり、時には感じの悪い捨てぜりふまで残されたりして、何だかこちらが悪いことでもしたような気分させられてしまうので、ついいらないものでも買ってしまったり、その気もないのに余計な新聞を一ヶ月とったりすることになってしまいがちです。だから、日本でセールの人に会うと、自分の要求にびったり合って買うという稀なケース以外は、結局買っても買わなくても、不愉快な思いをさせられるのです。こういう暮しにくさは、あちらでは一度もないことでした。

先日も「セールス対応法」に関する読者からの多数の投書が新聞紙上を賑わし、これが主婦にとって深刻な問題であることを物語っていました。この記事を貫いて読み取れたのは、双方に横たわる不信感と、不快なかけひきでした。こんな、狐と狸のばかし合いのようなことを演じなければ、我が国ではものをことわることもできないのかしらと感じたことでした。

イギリス人の売る気のなさについて、「イギリスでは、あまりよく売れて収益が上がり過ぎると、税金が高くかけられて損なので、あまり売れない方が良いらしい」という説も聞いたことがあります。個人商店に累進課税が適用されるのでこの説もまるきりのはずれではなく、税制がイギリス商人のこんな態度を助長している一面もあるでしょうが、沢山売ればいくらかでも収入も増え

ることは確かなようです。しかし彼らは、自分の身を低くし、相手にとりいつてまで売ろうとせず、（この点は日本の商人に比べて不愛想で高慢にみえますが）その代り、相手が買わなくても、平然と相手の気持を受け入れただけのゆとりがあります。ただ売らんかなの立場ではなくて、本気で買手の立場を考えてアドヴァイスできる精神を持っています。彼らは、商人である前に、先ず人間であろうとしているようですし、お客をも、第一に人間として考えてくれているようです。しかしこれは、言いかえれば、イギリスの商人が、このような人間性を保持しているが故に、日本人のようにエゴノミックアニマルになりきれず、イギリス経済の沈滞をきたしたのだということにもなりそうです。もし日本で、このようなイギリス的商法を実践する店があったら、一部の人に評判は良くても、いずれ破産の憂き目に会うことは目に見えています。あちらではみんなこんな風ですから、破産もせず、のんびりと商売を続けています。日曜日や祝日に店を開くのは、インド人、ユダヤ人、日本人ら他所者の店位のもので、イギリス人にしてみれば、「他人が休んでいる間に一もうけしよう」という商魂なんぞはくそくからえて、宗教的な意味ばかりでなく、自分のためにも安息日を大切にしているようです。

久しぶりに日本へ帰ってみて、家庭電化器具などが益々便利になっているのに驚きました。御飯は、炊いたら

そのまま温かくとっておけるようになっていて、真先にその新製品にとびつきましたし、その他洗濯機もテレビも冷蔵庫も掃除機も、次々に工夫され、モデルチェンジを重ね、あの手この手で売ろうとして、より便利な製品が開発されていました。それにひきかえイギリスでは、今だに霜を取らねばならない冷蔵庫を使っており、洗いは終る迄に一時半かかる洗濯機に、掃除機は依然重い重いフーヴァーです。今やイギリスでも、車もテレビも日本製の方がはるかに性能がよく、故障が少ないという評判が常識となつて多くの人々の間に浸透し、左隣の家も車はダットサン、テレビはソニーと、大の日本製品ファンで、「今度ステレオが買いたいが、これもぜひ日本の製品にしたい。サンヨーかヒタチかどちらがいいか？」などとわざわざわが家へ聞きにきた程でした。このような、日本の機械、電気製品の急速な進歩は、日本人の、少しでも他社より優れた製品を作つて、我社の売り上げを伸ばそうという、商魂から生まれるものなのでしょうが、それを成し遂げる創意工夫や、あくなきエネルギーには、私も日本人の一人として大いに誇りを感じます。しかし、こうして日本が経済大国となり得た今、その道を依然驀進する前に、ちょっと立ち止つて、ただ売れさえすればよいというのでなく、もう少し賢い手の立場や人間の暮し全体を考えていく態度を、この経済的に落ちた国から学ぶことは、世界的に日本の輸出超過が問

題となつてゐる現在、私達がこれから進むべき道に對する、何らかの手がかりを与えてはくれないでしょうか。最近、「経済から文化へ」と、日本の進路転換を求め、声をよく耳にしますが、私には、日本の経済活動そのものの中にも、一つ文化が欲しいと思われるのです。

帰国して最も驚いたことの一つは、ほとんどすべての物が三年半前の二―三倍にはね上つてゐた、聞きしにまさる物価高でした。換算してみると、大抵のものはイギリスの方がはるかに安いのも、細かい点にもよく気がついてすぐ改良したり、(小さいものの例では、イギリスではまだ穴をあけるだけの箱入りティッシュペーパーの真中の部分にビニールを貼ることから) 過剰包装やら、子供の学用品についている装飾の多さなど、余計なことに手間やお金をかけてゐる日本の製品を見れば、なるほどとうなづけます。イギリス人は、その製品が本もとの機能さえしっかり果していれば、少々なこと、例えばティッシュペーパーの真中の部分が埃にふれることなど一向に気にかけません。

一体どちらが人間にとつて望ましい社会なのかしらと時折考えますが、品物が豊富で、何でも求め易い日本のデパートが、つくづく有難く思われる一方で、あのゆつたりとした、イギリスのお店のおじさんやおばさんが、無性になつかしく思い出される瞬間もあるのです。

真の豊かさはどちらにあるのでしょうか。(続く)

# 離婚のしかた教えます



## 弁護士中島道子さん離婚を語る

連載ルポルタージュ③ 和田好子

弁護士中島道子さんは、女性の地位向上のため、いくつかの運動に加わっていられるし、お仕事の分野でも、女の味方として活躍がある。おたずねしておおいに離婚について語っていた。

### 離婚するのも命がけ

**和田** 最近家裁の中で、夫が離婚調停中の妻を出刃包丁で刺して、自分も自殺したという事件がありましたね。奥さんは助かったけれど。

**中島** つい最近？ また？ まあ、こわいわねえ、やつぱり、家裁は……。

**和田** 暴力をふるうというので奥さんは離婚したい。しかし夫はイヤだったのです。

**中島** 普通、暴力で訴えられている場合には、

一しよの部屋には入れないくらいの配慮はするんですけどね。軽く見たんでしょうね。男が一回や二回、なぐるのは、そんなにとがめ立てすることもないって考え方がありませんから……。

**和田** それはずいぶんひどいですね。

**中島** まだまだありますよ、それは。だから軽く考えていたんでしょうね。

**和田** 離婚も命がけですが、日本の離婚は、暴力沙汰というような、どうにもこうにも耐えたい場合だけなんじゃないでしょうか。

というのは、他の国に比べてたいへん離婚率が低いので、めったなことでは別れないんじゃないかと……。

**中島** 他の国に比べると低いです、それは離婚する必要がない、非常にうまくいっている夫婦が多いから、とは必ずしもいえないです

ね。潜在離婚といまして、もう夫婦としては破たんしているけれども、いろんな条件から離婚ができない、そういう夫婦がいっぱいありますよ。

やはり一ばん大きいのは、妻のほうに生活力がないから、離婚すると食べられないということでしょう。それが割合としては一ばん多いと思いますけれども、夫の側も、奥さんがいなければ不便で耐えられないのね。身のまわりのことができな、いわゆる身辺自立をしていませんからね。それに社会的なメン

ツの問題もあって、愛情が全くなくても離婚しない。そういうことが多いと思います。

**和田** 潜在離婚が多いのに、離婚率が低いのは、おっしゃるようなことが大きな要因だと思いますが、何か手続上など、離婚がむずかしいということはないのでしょうか。

**中島** 手続の面では、日本の協議離婚というのは、世界でもあまり例のない制度ですが、これは双方離婚に意見が一致すれば、ただ紙きれ一枚出せばいいので、非常にかんたんに離婚ができる。そのかんたんさが悪用されてる面もないことはないけれども。

ただ最近片方が同意しなくなってるわけですね。昔は男が離婚したいといえば、女は無を言わずハンコを押させられちゃったんだけれども、このごろはもう少し権利意識が高まっているから、いやだつていつたらハンコを押さないわけですよ。

そうするとなかなかむずかしいことになるのね。こんどは家裁の調停にもつていく。しかし調停も、あくまでも同意すること、話し合いで両方が一致することを援助するものですから、片方が同意しなければ、いくら調停委員会がいろいろ試みても、不成立ということになってしまふ。

あとは裁判所に行くしかないんですね。裁判所に行った場合に、今までの例から、どうい場合でも離婚ができるということではなくて、法律的に定められている一定の原因がある場合についてだけ、離婚が認められる、ということになってるわけですね。

そこにあげられている四つの条件です。

●不貞行為。

**和田** それは夫と妻、両方についてですね。

**中島** ええ、戦前のように女だけということではなくまりました。

●悪意の遺棄。

出て行っちゃって、生活費もよこさないというような場合ですね。

●三年以上の行方不明。

●強度の精神病で回復の可能性がない場合。

この四つの条件のほかに、五つめに、●その他婚姻を継続しがたい重大な事由がある場合。

というのがあります。

ですから四つの理由以外でも、結婚生活をする上で、もう非常に無理だ。つまり破たんしているという場合には、離婚が認められるというふうに、一応はなっているんですね。

ところが離婚の原因を作ったほう、責任のあるほうから離婚請求をしても、それは認められない、という考え方が裁判所では確立しているものだから……有責主義というんですが、不貞行為、ほかの異性とかけおちしたような人が、いくら夫婦の関係が破たんしているとしても、そちらのほうから離婚請求してもだめだ、ということになっているんですね。

だからそういうこと（不貞行為）された人が、離婚するのいやだつていえば、これはもう何年たつても、お互い完全に夫婦じゃなくなっている、離婚する方法はないですね。

### 家事がへたでは

#### 婚姻を継続しがたい

**和田** 婚姻を継続しがたい重大な事由、といいますと、これはずいぶん巾が広いでしょうね。

**中島** まず暴力、それから性の不一致……不一致ぐらいなかなか認められないわね、性の異常ですね。同性愛とかサディズム。

**和田** 性関係で異常なことといっても、これは主観の相違というか、むずかしくはありませんか？ そんなことで認められるんですか。

**中島** 認められなきゃ困るじゃないの（笑）有名なのは靴をはかせるとい例ですよ。その時に靴をはかせないと、男のほうが進めなんだという……。

**和田** そんなの、フランス映画でありましたね。でも何も靴ぐらいはいても……やはりイヤでしょう？ それで奥さん怒ったわけですか。

**中島** そりゃアいやな人はいやですよ。（笑）両方が一致すれば問題ないけれどもね。

ですから、いやだつていうことの程度の評価が、裁判所にゆだねられるということに、問題があるんですね。

**和田** 夫婦の間柄を裁判所のモノサシで計つて、どこからが異常とか、婚姻を継続しがたいかというのは……大きな間違いがなければいいのですが……なかなかかむずかしいんじゃないですか。

**中島** その重大な事由として、夫側から必ず出てくるのが、家事をおろそかにしているとか、下手だとか、妻としてのつとめを果さない、ということなんですね。

**和田** 家事の不得意な人なんて、そこらにいっぱいいますが、どの程度から婚姻を継続しがたくなるのかしら？

**中島** でもそれは必ず出てきますよ。もちろんそれだけで、離婚を認めることはありませんが、大きな理由になるんですね。

ですから、そういうことを針小棒大に言いだして、お互い言い合う形になって、その判断を裁判所に任せるということになる、たいへん不合理なことになるのね。

女房として失格だとか、セックスの異常だとか、欠陥があるとか、そういうことを裁判所で言い立てるといのは、もう夫婦として破たんしているわけですよ。破たんしている

にもかかわらず、そういうことで血みどろになって争つて、裁判官に決めてもらう、なんて、考えてみればおかしなことなんですよ。ね。

だからこういうことには裁判官がタッチしないで、当事者だけで決められる、というのが理想でしょう？

**和田** そうですね。

**中島** だから片方が、もうどうしても離婚したいとなれば、離婚する、離婚を認める。そして生活の面で困る配偶者があれば、裁判所がその点に限って決める。そういうことにならなければおかしいので、それはもうだんだん世界的にそういう方向に進んでいて、すでにスエーデンではそうなってますね。他の国でもそうなってますが。

スエーデンでは、双方離婚に意見が一致すれば、日本の協議離婚と違って、裁判所に出頭するわけ。裁判所がその意志を確認して、すぐ離婚を認めるのね。

もし片方が離婚したくない、と言つた場合は、まずそれを裁判所に持つていくと、六ヶ月間の再考期間をおいてみて、やはり離婚したいという意志が変らなかつたら、もうそれは、片方が離婚したくないといつても、離婚は認められてしまうんです。

あとは財産関係と、子供の親権についてだ

け、裁判所が決める。こういうシステムになっているのね。一九七五年に改正された離婚法でそうなつたのです。

やはりそうなるのが、お互いに人間として理想的ではあるんじゃないですか？ まったく憎み合つて、愛情なぞ少しもないのに離婚できなくて、しかも裁判所へ行つて、裁判官の前でそれを最大限さらけ出して、争うというのはホントにたいへんなことですよ。

しかし今日本でそれを実現したら女のほうが被害者になり、男のほうは無責任になるでしょう。

女が男に養われるのが結婚というものだ、ということとでずーつと育てられてきて、それ以外に何にもできないようにされている女性が、捨てられてしまう、という形になり、たちまち生活の面でもその他の面でも、非常に困る状態になるわけでしょう。

だから日本の場合、まだそんなことが実現できるはずはないんだけど。スエーデンに行つたとき、女の人には必ず、こういう離婚法ができて困ることはないかと聞いてみましたが、例外なく私たち女性が、喜んで法を改正したのだ、みんな喜んで、という答が返ってきましたね。

だから条件ができれば、そうなつたほうが

いいんじゃないですか？

**和田** たしかに、夫婦間の問題を、裁判官が決めるというのは、今うかがっていても、いったいどういう基準、モノサシで計るのか、むずかしいし、おかしいという気がしますよね。

**中島** そうですよ。そのモノサシですが、あの裁判官の書いたものによると、夫の義務と妻の義務とお金をとつてくること、妻の義務は家事労働だということですね。夫がお金をとつてこないというのは重大な事由だし、妻は家事がおろそかだというのがたいへん大きな欠陥なんです。それが離婚の理由になるわけですね。だから共働きの場合、妻が働くことに対する、夫の同意が必ず問題になる。夫の意志に反して働いているとなると、その結果夫婦の関係がうまくいかなかったのは、妻に責任がある。そういう考え方を持っている人（裁判官、調停委員）まだ非常に多いですよ。

**和田** そんなモノサシはどうも、かなり問題がありますね。そして調停とか裁判とか、出るところへ出て離婚というのは、相手が同意しない限り、なかなか困難だ。そこで出刃包丁なんかも出てくるし、生活に困るから頑張っちゃやう、ということにもなるわけですね。

## 協議離婚はとりきめが大事

**中島** 女のほうで離婚に同意しないのは、生活に困るというだけじゃなく、もつと強いのは許せないという気持ちね。こんなに夫につき合ってきたのに、裏切られた、と相手を恨み続けたら、復讐するというところに、自分のその後の一生を賭けてしまう。かなり年をとった人の場合には、夫婦の生活も長いですしその気持ちも分りませんが、若い人にも多いんですね。

夫を他の女にとられて、くやしとか、精神的なショックが大きいというのは当然ですが、それを離婚を許さないという形、法律的に相手をしぼりつけるという形で解決しようというの、ときどき残念に思うことがあります。

**和田** 協議離婚は簡単ですが……。

**中島** そう、一致さえすれば簡単に離婚ができるということ、お互いに非難し合う泥仕合をしないですむという点で、男女双方にいわけですね。

ただ注意しておきたいことは、協議離婚で離婚届けだけ出して、財産のことなんか定めないでおくと、それはもう、あとでたいへんですから……それだけは絶対一しよにしてお

くことですね。

離婚届けに署名する時点で、同時に慰謝料をどうするか……子供の親権者をどっちにするかは、届けに書かなければならないことになっていますが、実際に育てるのはどうするかとか、養育費をどうするかとか、そういうことははっきり定めておいて、約束が守ってもらえないおそれがあるとき、たとえばお金を分割で受取るというようなときは、公正証書にしておく。財産分与の時効は離婚後二年ですが、一度離婚ということに決まっちゃえば、男のほうはお金なんか出さないと。男はたいがい再婚してしまう、再婚した男も相手に財産分与をよこせというのはほんとにむずかしいです。

しかしお金を取らないで、とにかくサラと別れたい、というならば、それは一つの方法だね、かえってそのほうがいいのか、たくさん知っていますけれどもね。

わずかのお金のために一年も二年もゴタゴタして、たいへんなエネルギーを使ってね。それくらいなら、さっさと別れて新しい生活を始めたほうが、女の人にもずっとプラスになるということ、ありますよ。

お金を取るな、ということではないから、誤解のないようにね。再出発のお金は必要で

すからね。

とくに、二十年、三十年夫のためにつくし  
てきて、夫名義の財産がふえたのは、自分が  
これだけつくしたからだ、という場合には、  
頑張つて取らなさいいけませんけどね。

**和田** 離婚分科会のアンケートによりますと、  
ずいぶん少額のお金で、別れている例が多い  
のですが、男のほうにお金があれば、とる  
ことができないのでしょうか。

**中島** 財産分与は、これは財産がなければと  
ることはできませんね。

### 財産分与と慰謝料のちがい

**和田** 財産がなければ、分けることができな  
いのは当然ですけど、するとまったく出さな  
くてもすむのですか？

**中島** それはもう、それぞれのケースでしょ  
う。ただ、財産分与の中には離婚後の扶養と  
いう要素が含まれていて、離婚したら片方の  
配偶者……だいたい妻ですが、生活がまった  
くできなくなる、という場合には、離婚後の  
扶養という形で、男に財産がなくても、毎月  
の給料の中からいくらずつ払え、というのね。  
そういうのが、理論的に認められて、少しの  
例はあります。

今までの例だとだいたい三年ぐらいね。

**和田** 立ち直るまでの間ということですね。

**中島** アメリカは、「妻の死亡または再婚ま  
で」夫の給料のかなりの部分が、仕送りを義  
務づけられる、アリモニーという制度がある  
けれども、もともとこのアリモニーというの  
は、女性が経済的弱者だということを大前提  
とした上での、救済策でしょう？

だから過渡的には必要だけれども、将来的  
には……妻が経済的に自立が可能になれば、  
必要でなくなるものですね。

慰謝料というのは、どつちがどういう点、  
離婚に至るまでにどれだけ相手に精神的苦痛  
を与えたか、ということを決まることです。

ところが、日本では戦前、このアリモニーと  
夫婦で築いた財産を清算することと、この両  
方含めた上での財産分与という制度がなかつ  
たんです。

戦前には結婚するのが家と家でしょう。離  
婚すれば当然実家に戻るといふ形で、実家の  
戸主が扶養の義務を負っているわけですから、  
夫が別れた妻にお金を送るなんて、考えられ  
なかつた。

ただ、離婚という事態に対して、それは非  
常に精神的な苦痛……だけじゃなく、財産分  
与的なものも含まれているのだけれど、要す

るに離婚に際して苦痛を与えたからというん  
で支払うものを慰謝料といっていたわけ。

これは民法七〇九条の、不法行為、交通事  
故などで相手にけがをさせたとか、働く能力  
をうばったとか、そういうとき相手に与えた  
損害を賠償するでしょう、それを適用したの  
ね。不法行為をしたからというんで、離婚に  
さいして支払うお金を慰謝料といったんです。  
今でもそういう考え方があると思うのね。離  
婚したのにこれしか支払わないのはおかしい  
というようにね。

**和田** まさに私もそんなふうに考えていて……

**中島** 私自身はこのように考えています……  
同じように考える人はだいたいぶ多くなつてきて  
いると思うけれど。離婚したからお金を払う  
んじやなくて……たしかに離婚は苦痛を与え  
るかもしれないけれど、それは夫婦の関係が  
破たんした結果にすぎないので、離婚すれば  
当然慰謝料を払わなければならないというも  
のではない。

離婚自体まったくの不幸でしかないものと  
すれば、慰謝料を払うということになるけれ  
ども、離婚には非常に好ましい新しい人生の  
出発という要素も強いでしょう？

ですから離婚そのものではなくて、離婚に

至る結婚生活の中で、具体的に与えられた不法行為、暴力とか不貞行為……そういう具体的なことに対する「慰謝料」と考えているわけです。

だから、離婚したのにこれしかお金を払わない、というのはおかしいと思うの。離婚に至るまでにどんなことがあつたかで、お金の多い少ないが言えるのであつてね。

私はやはり、離婚そのものについて慰謝料なんて払うのは、望ましいと思いませんね。

離婚そのものについてはもとより、結婚している間にいろいろ不法行為を受けたといつても、それはだいたい、そんなにがまんしなければいいわけでしょう？

ところが日本では、どんなことがあつてもがまんしなければいけないというんで、十年二十年がまんを重ねるから、それに対して慰謝料を払うべきだということになつちやうんですよね。

もしがまんしないで済めば、そのこと自体に慰謝料を払う必要はないし、がまんしないで済むほうが、私はいいと思いますよ。

**和田** それはもちろんそうですよね……。

**中島** 将来はそうあつてほしいと考えていますが、ただ、弁護士は皆そうだと思うけれど、必ず二つの視点が必要なんですよ。

一つは将来どうあるべきかということと、一つは現実はどうするかということで、私たちのやつてる仕事は、今困ってる人の力になることです。今困ってる人の利益のためにどうするか、という視点がなければ、弁護士として失格なんでね。

それはもう、長いことがまんしてきた女の人達のためには、財産分与も慰謝料も、たくさん取らなければならぬと思つてるわけ。

若い人の場合には、そんなことにあまりこだわらないで、新しくやり直しなさいって、言いますけれどもね。

**和田** 若い人は小さい子がいる場合が多いですが、小さい子を連れて離婚というのは、やはり非常に困難ではないでしょうか。

**中島** でも……やれなくはありませんよ。母子家庭に対する、福祉的なものもあるから、何とかありますよ。保育園にも入れますしね。

☆ ☆ ☆

中島さんのお話から、私は自分の心の中に巣食っている偏見、思い違い、無智のわずかに気付き、目のさめるような思いであつた。

みなさんはいかがだろうか？

離婚となれば、男が女にお金を払うべきだとか、慰謝料はもちろん財産分与まで、女が

男を罰する手段であるかのように、理由もなく思い込んでいたことに気がついた。

一方が離婚したいといい出したとき、一方が拒否すれば離婚できない現在の制度を、女性の権利保護という一面のみから見ていて、女の自由の実現をはばむというもう一つの面に気づかなかつた。

とくに印象的であつたのは、「離婚には非常に好ましい新しい人生の出発という要素も強い」と言われたことだ。

おそらくあの、離婚分科会のアンケートにあらわれた、「離婚してよかつた」という多くの感想は、「新しい出発」を身をもって体験した人たちにして、はじめて抱き得るものなのであろう。しかし離婚後の女の旅路が、苦しいのも事実。アンケートにも幼い子どもは例外なく母親が連れて出ており、「このごろの母親は無責任」という、いわゆる識者の発言とはうらはらに、むしろ母性の強さと悲しさを感じさせる。中島さんのいう「潜在離婚」も、子どもゆえの辛いがまんが長く含まれていると思う。

そこで次回は、子どもを抱えての離別のうち、女の自立を許さない社会の中で、母子福祉など利用しつつ生きる方法を具体的に探してみたい。

# 書評

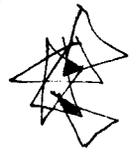
《愛が裁かれるとき》

澤地久枝著

ドキュメント・離婚と銘打ったこの作品が、もし凡百のルポライターの手にかかっていたらおそらく最近の婦人公論などに掲載されている、のぞき趣味でいっぱい的低俗なきわものに堕してしまっただろう。

それぞれ種類の異なる十八の離婚のケースをとりあげた澤地氏のこの作品は、しかしそうしたルポの域をはるかにこえて、さながら短篇小説のような文学的香気を発散している。

一つ一つの特殊な離婚のケースの各々に、著者は愛につきまとう苦しみを苦しまねばならぬ人間業の深さと、もつとも私的なものである男女の愛までも規制しようとする、社会通



念のおぞましさを見据えている。ひと頃澤地氏の作品は、自分自身「女性」を意識的に表面に押し出しすぎる傾向があったが、この作品の簡潔な、抑えた筆致は、さりげない客観的な描写の中に、なま半可な小説家などは足許にも及ばない人間ドラマを描き出している。

まさに「至芸」ともいうべきルポである。一読をおすすめしたい。

（文芸春秋社 九八〇円）

《女たちの民法問答》

鍛冶千鶴子著

道交法違反でつかまらない限り、泥棒に入られでもない限り、わたしたち女の大半は、法律の必要を感じずに暮していることが多いように思われる。

ほんとにそうなのか、どうか。この本に収められている六十の

# 情報コーナー

《女のセンターができました》

日比谷図書館の四階。女に關する雑誌、書籍、資料がずらりと並び、一隅には談話コーナーのソファが、書棚の前にはズラリと机とイスの並ぶ、婦人総合情報センター。

名前はいかめしいのですが、窓からは青葉の眺めがすばらしく、室内はやわらかいトーンで統一され、断然、居心地のよい女のためのセンターです。

新聞にも報道されたいのに、まだ一日の利用者二十三人。主婦たちにと来てほしいのに、来るのは〇しが多くて……とセンターの責任者たちは残念そうでした。こども連れでもよいそうです。お茶も飲めます。

（お茶の葉持参）

おかみも味なものを作るものですね、と言ったら、やはり婦

人グループから働きかけがあったからですよ、と返ってきました。

五十人の集会室（タダ）もあり、前もって申込みば空いてさえいればOKです。

足場のよいところです。みなさんぜひ、ご利用を！ もちろん「わいふ」も並んでいます。

《無公害わかめをどうぞ》

まだ工場が一つもないという風光明媚な神奈川県真鶴半島、公害反対運動のグループで、合成洗剤追放をすすめています。海が汚れては困る漁師さんたちと手を結んで頑張っています。

この漁師さんたちの作ったきれいな海の干しわかめをどうぞ。

一袋（500g）91000円・送料

は一袋350円二袋420円包装代50円  
問合先・真鶴町丸山312 奥津和子

☎〇四六五（六八）二二二二八



問いと答えは、私たちの結婚そのものが、どんなに深く法律とかかわっているか、また法律がどんなふうにある時は常識と一致し、あるときは一致しないかはつきり示してくれている。それを肯定するにせよ、しないにせよ、それを知らないでいるということは、いつか大きなマインナスを私たちにもたらすだろう。女にも、もつと法の知識は必要なのだ、と思ひしらせてくれる一冊である。

(学陽書房 九八〇円)

### 《女が職場を離れるとき》

沖藤典子著

子として、妻として、母として、職業を持つ女として生きていた一人の人間の、歯車が一つ狂いだしたらどうなるか、の記録である。

二人の娘の出産、育児の忙しさも過ぎて一応の平穏も束の間、夫の転勤、実父の発病と続けざまに事が起る。癌を宣告されて

あと一年の寿命と知る、娘としての苦悩、看護のかたわら、手術の前後も仕事をなげだせない、と、必死になって頑張った。

その一人娘にすべてを託す父親の悲哀が、時には腹立ちとなり、単身赴任の夫の「妻子と一日も早く一緒に住みたい」という願望も、子供達の母親への愛情も、痛いほどよくわかりながら、すべての板ばさみに苦しむ。

自分にとつての職業の重要性や、「女はだめだ」と言わせないための悲壮なまでの突っ張りもあつた。しかし父親の死後、夫と子への想いの為、未練を残しながら職場を去らねばならなかつた。

「老人扶養、看病、家庭の人間関係の中で模索している多くの女性に、そして共に暮らしている男性に、一つの議論を提供できれば幸い」とあとがきにあるが、確かにそれぞれの立場での一読をおすすめしたい。

(新潮社 九五〇円)

### 《こどものからだ

#### これでいいのか》

神奈川県相模原市は、市民運動のさかんな土地としてきこえていますが、その運動体の一つ、親たちの会が「こどものからだを蝕むものは誰か」というオレンジ色のパンフを出して、大きな反響を呼んでいます。

体格だけはよくなつていても、体力がどんどん落ちていくこともの現状。疲れやすい子、背筋のぐんにやりした子、反射神経のぶい子——最終的に無気力、無関心、無感動につながる肉体的変化。

その現状を知るとき、ぞつとしない人はいないでしょう。32頁のこの小冊子の中に、私たちの知らねばならない、知りたい情報が、いっぱい盛りこまれています。送っていただけますので連絡してみてください。

連絡先・相模原市相武台3-12  
1-3 木村徳栄 ☎四六五二二〇〇

### ☆アンチック・ドールの

#### 小品油絵

本誌のカットでおなじみの、神谷圭子さんはアンティック・ドールの研究・収集家です。19世紀から20世紀のはじめにかけて、ヨーロッパで作られたロマチックな人形たち。「小公女」に描かれているあの豪華な着せ替え人形です。

神谷さんは収集した人形をモデルに、たくさんの油絵を描いており、同好家の間では有名です。お部屋の装飾にいかがですか。カタログがありますので、お問合せがあれば持参します。問合先 ☎四二六(四五)九三九四

### ☆油絵・ガラス絵の小品

本誌先号でお知らせしたものです。バラやポピーなど花の絵が主で、額付一・五〜二万円くらいです。大きさは三号程度です。今後も、引き続き編集部に展示します。

# おしゃべり



## 入歯のはなし

小沢長太郎(75才)

たまげました。五月十日頃と想っていた「わいふ」が来たので。早速誌代送ります。ついでに、老人の体験談を一つ。

「入歯だと味がわからない」それはウソ。まだ入歯の青二才が言うこと。私、もう二十年総入歯。

歯医者に入歯の上手、下手なんてない。人一倍親切な医者が時間をかけてやっても、うまくできるとはかぎらない。不親切な医者がいいかげんにやっても合うこともある。

合ったら、それをびったりと合うようにするのには、もう医者じゃない。自分でやるんです。道具は電気ごて、小物やすり三丁、紙やすり一、二枚。できあがった歯は、親からもらったものよりはるかにいい。これ、私の経験。

(千葉県 佐倉市)

## 私のパン最高!

坪井寛子

私も「おしゃべり」のお仲間に入れて頂きたく、ペンをとりました。

和田好子様の「パン作りの功罪」なるほどと思いましたが、あまりにお気の毒なのでひ

とこと。家で焼くパンがまずいなんて、とんでもない。私は私の焼くパンこそ最高と思っています。私も何でも手作りが良い等とは全然考えない方の人種で、むしろパン等一斤三百円のものを食べても、一月一万円足らず。何も手間暇かけて、と思う方なのです。

けれど私の姉が「パン教室」やっていますので宣伝めくかもしれないのですが、私はパン生地を作る機械を使っています。もともとオーブンは十六年前のガスオーブンと古い型の電気オーブんです。

主人が新潟に赴任し、月の半分は新潟暮らしですが、主人の引越しの荷物にそつとしのばせたのが、この機械と中古の電気オーブンです。これに私の好みのインスタント・イーストと粉を持って、引越しの日から食パンを焼きました。二万円近くする機械をもう一台買うことに私もさすがにちゅうちよしましたが、殆ど一日おきに焼くので、家では洗濯機以上に働いています。まあ何といっても私が食いしん坊なんでしょうね。今日もまたおいしいパンを焼いています。(東京都 小金井市)

## 「おつれあい」論雑感

原真智子

一五七号ありがとうございました。遊び特

集とても面白く一気に読みました。特に「遊び考現学」は示唆に富んでいて考えさせられました。

ところで「おつれあい」論に関係があるのですが……先日「わいふ」編集部にお邪魔した折、印象に残ったことがあります。それは編集部の皆様が話されるのを伺っていますとご夫君のことを「○○」と名前でおっしゃることでした。それで相手のご夫君は「○○さん」と言っておられる。実にスマートということが見事というか羨しい思いがいたしました。

私自身のことを申しますと、肉親には「昭宏さん」と言い、普通は「原が……」と申します。近所の方はまず「主人が……」と言うようです。この近所というのが面白い場所です。大学の公務員宿舎のせいかお互いに相手の夫のことを「お宅の先生は……」というのです。事務官の家庭も少数入居していますので、その奥さんに対しては「お宅のご主人……」と言うのです。もう馴れましたから女同士二人でしゃべっていて、相手が私のことを「原先生の奥様」などと言ってもびくともしなくありません。私はこうした際には二人称は専ら「あなた」ですから少数派なのでしょう。とんだおしゃべりをいたしました。ごきげんよう。

(愛知県 刈谷市)

## 共感!!

井出保子

一五七号、興味深く拝読いたしました。わいふティーチインの、高野貴子さんの新聞の女性に対する取り上げかたについては(婦人面、文化面の区別)いつもどうにかならないかと思っていましたので、とても共感を覚ええます。

(東京都 日野市)

## わいふの届いた日

吉羽芳子

太宰府には、この二、三日春らしい陽ざしがいっぱいです。

十時頃、一五六号が届きました。「きょうは、何にもしないでおこう」と思っている所に、届きました。べつたり坐って、今二時半、やつぱりお腹はすいたので、これからごはんです。パンジーの大輪の香りまで食べたいくらい、ペコペコです。食べるのがきらいなミミにも、オブラートにお肉を包んで、飲ませなければなりません。

アンケートの鈴木さまのハシカのお子さんは、今頃走りまわっていらっしやるでしょうね。大へんだったろうと思います。でも、おかげでおもしろかったです。

わが家が、変なのか、特別なのか、それともいつも読みまちがっているのか、いろんな人が登場するので、皮肉っぽく感心したり、ニタツと笑ったり、かわいそうだなと心底思ったり。そしてそれなりに、とてもすすおに吸収させて頂いて、ありがたいと思っています。

離婚のアンケートの答、ほんとに正直な答と信じていいのか、それともウソかな?と。やはり私が甘いのでしょうか。

帰りが遅い主人とは、トイレの中でも、歯をみがきながらも、本のことから、戦争、クモの子が生まれたことまで、うわつらでなくて話しています。多分、離婚はしないでしよう。

「おしゃべり」の古沢涼子さんってどんな方でしょう。私はおちこぼれだけれど、ゆっくりくっついていきたいです。

## ミラノより

岡野寿子

「百聞は一見にしかず」とかいいいますが、本当ですね。こちらに来る前の情報は、寒いか、リングはおいしくないとか聞いていたが、思っていたよりずっと暖かく、(毛皮のコ

トで歩いている人もいますし、半袖のワンピースの人もあります）リングも、品種改良がしてないとみえて、形は悪いですが、味はおいしいのがありました。

（イタリア ミラノ）

## ダメ人間!! 集まれ

野村瑞枝(35才)

十河温子さん、四人子持ちの野村です。どうもありがとう。うれしかった。私も、ものすごく劣等感の強い人間で、「わいふ」が届くと、たいてい自己嫌悪におちいって、自分以外のすべての人があんまり立派すぎるように思えて、二、三日はションボリしてしまします。

子育てというのは、最初の子の時が一番大変で、(当前ですよね、とにかく何もかもはじめての経験なんだから)数が増えるごとに楽になってゆくものです。心配はいりません。それにしても、「わいふ」読んでるヒトって、優秀なヒトが多いのよね。いやなっっちゃやうことがよくある。

十河さん、失格主婦同士力を合わせて、優等生ワイフたちをやつつけちゃいましょうよ。私なんか自立しようにも何の資格もないし、技術もないし、語学もできないし、ほんとに

いやになるほど何も出来ない。

子供の数をおもて看板にはしたくないし――要するに救いようがないというわけです。

だけど、やっぱりこういうダメな人もいるんだから、こういうヒトたちに劣等感を持たせてはいけないのではなからうか。十河さんと私はダメ人間の味方ですよ。強い味方ですよ。ダメ人間は私たちのもとに集まれ!!

(東京都 練馬区)

## 日米子育て談義

高野貴子

考えるに、アメリカ人の子がベタベタしいというのには、第一に、日本の母親が世評を気にして、良き母親のパターンに自分を入れようというのがあって、子供を必要以上にかまう。

アメリカ人の母親の中には、「泣いている子供は抱かない。泣かないでいる良い子をかわいがる。そうすれば良い子にしているようになる」こんな事、豪語したのがあるのね。日本じゃそんな事言わねえ。泣いている子、放っておいたら、隣のおばさんが我家に入ってきたわよ。

そんなこと言う人でもアメリカ人は、子供の安全性に対しては、日本人の倍神経をつか

っているようです。

又、日本の住宅事情の悪さが、子育ての弊害になっていることも事実。親子完全別室をやるのも絶対無理。

別に、アメリカ式育児が良いという事じゃなくって、ベタベタ子供を育てないようにするやり方だと思ふのです。

「おしおき」もアメリカじゃやるようだし、すべてに育児がちがうようです。

面白いのは、日本かぶれのすごい米人がいて、その人、子供も日本の幼稚園に入れて、(これは、バイリンガルを養成するためもあるのだけど)その下の一才の子も母乳で育ててあまり人にもあずけないで、母親べったりでやっているの。もち論、家も日本住宅よ。その子、他の子供に比べてすごい母親べったり。アメリカ人の子供じゃないみたいね。

私、これは実験としてはすごいんじゃないかと思ひます。あれは、うちの子供と同じ位の母親ベッタリぶり、アメリカ人としては異常。ともかく、この話、いつか書きます。

私も、子供が泣くのは、かなしいとか、いやなことがあるからと思つていたけど、一才をすぎた子(いやそれ以前でも)は、自分に注意を向けたかったり、わがままで泣くことがすごく多いと思ふのです。これは、三人育

ててやつと気付いたのね。育児書をあまり読まなかつたせいかしら。

(長崎県 佐世保市)

### 対話時間最長記録保持者とは!

古川光代

引越しました。飛鳥の近くの良いところですよ。

子育て期の主婦の生活に私達が対話時間最長記録夫婦として登場していて驚きました。

実は私達が普通で、平均より多少多いほう、位にしか思っていないかつたのです。テレビがないからかしら?  
(奈良県 橿原市)

### ほしい離婚の自由

藤田信子

先回よりの連載、「離婚のしかた教えます」を興味深く拝読しています。

世の女性誌は、「結婚のしかた」のみ、いつも大きく扱っていますが、離婚についての知識も、もっと知りたいものです。

自由に離婚できる世の中であつて、しかも離婚しないでいられるのが、一番幸せだと思ふのですが、まだ実態は、女性にとつては、離婚の自由からは遠いようです。次回を楽しみにしています。  
(神奈川県 横浜市)

### 重荷になる「わいふ」

長田和子

最近「わいふ」が重荷になってきました。

なぜかというところ、いろいろな問題提起があるので、ついつい私ならと考えてしまつて、仕事を手につかなくなつて、締切りに追われて子供をほっぽり出してしまつて、幸か不幸かうちの子供達は親離れが早いのでけっこう私なしでもうまくやつているので、はたしてこれでよいのか、などとまた考えてしまつて。しかし一晩たつとケロツとしてしまふです。  
(神奈川県 相模原市)

### つらい母親

長田綾子

私が短歌に熱中している間に、十才の長男が骨折のショックから食事拒否症にかかり、五ヶ月間つきそつて、入院生活を送つておりました。

退院しましたが、体重十七キロの横這状態で困つております。

父親の厳格なことと、給食恐怖症と両方が原因のようで、現代の教育の難しさを痛感しております。

(千葉県 千葉市)

### 投稿規定

予約購読者はどなたでも投稿できます。投稿は原則としてすべて掲載します。

●たていと・よこいと

見たこと、聞いたこと、感じたこと、何でも自由に。(千二百字まで)

●わいふ・テイ・チン

問題提起、評論、反論。(テーマ自由・千六百字まで)

●特集テーマ原稿

テーマはそのつど最終ページにのせます。(千二百字まで)

●おしやべり

おたよりその他。(五百字まで)

●持ち込み原稿

評論、ルポ、文芸など。長さ自由、ただし掲載は編集部で協議の上決定します。

## おしらせ

●特集投稿募集(締切七月十日)

一五九号の特集テーマは、「同居か別居か」です。

近ごろ、将来結婚した子どもと同居しようというので、二世帯用に改造できる住宅を建てるという話をききます。

一生を通じて、親と子が親密な関係にあることは、望ましいに相違ありませんが、それが即同居ということではないでしょう。嫁、姑の間柄はもとより、実の親子であつても、お互い気がね気苦労がつきまといがちなのが同居のつねです。

でも老人が一人ぼっちで人知れず死んでいたなどと聞くと、アア、やっぱり子どもはそばに置いとくべきだ、と誰しも思うのではないのでしょうか。

今回は賛成論反対論というより、物理的経済的条件など、成功不成功の原因をくわしく洗ってみたいと思いますので、そのあたりに焦点をあわせてご投稿をお待ちします。体験、見聞どちらでも結構です。

●一五七号が一冊、宛名がはがれて返ってきてしまいました。当方の貼り方がわるかったので、申し訳なく思っております。

未着の方、どうぞご連絡下さいませ。

## 編集だより

●公開編集会議を開きました。

五月三十日、東京都教育会館の大広間(定員二十名)へ三十名の読者がおいでくださり小さいお子さま連れの方もあって、ケンカで泣き出す余興も入った、にぎやかな編集会議でした。

●子育てについて、先輩から後輩への伝達が欲しい。

●停年後の夫と妻との関係について。

●男の自力更生(妻の病気のとき、家事を引き受ける能力を！)

●たのしい読み物を。

等の企画が出ましたが、そのあいまは打ち明け話、討論、おしゃべり、さまざまあつてたちまち五時になりました。途中でふり出した雨もいつの間にかあがり、みんな濡れずに帰れたのも幸運な、楽しい一日でした。

●一五七号九ページ掲載の「手探りの自立後日談」鯉淵道子様の「淵」の活字が、写植タイプに常備がなく、「淵」を使いまことに申しわけありませんでした。訂正しお詫び申し上げます。

訂正・鯉淵道子

★購読申込は……

ハガキか電話でどうぞ。

すぐ本に振替用紙をそえてお送りしますの  
で、折り返しご送金ください。  
バックナンバーのご注文も同様に。

# わいふ

158号

1979年5月25日発行

編集・わいふ編集部

印刷・イワタ印刷

定価 350円

(年間購読料送料共2520円)

発行所・わいふ編集部

東京都新宿区加賀町2-4-162

TEL (03) 260-4771・269-2388

260-5500

(振替口座 東京5-110430)

(隔月刊)

★購読中止は……

かならずお申出ください。送金をお忘れになる方が多いので、誌代が切れてもひき続き送本しています。お申出がないと、お送りしてしまうので、ぜひハガキか電話を。



株式会社 ミネルヴァ書房  
〒607 京都市山科区日岡境谷町1  
☎(075)581-5191 振替京都市 8076

●話題の本

●老年期の性 O P 叢書

大工原秀子著 わが国で初めて明らかにされた老人の性の実態。六〇歳以上の老人五二〇人の調査の実際と性の告白をありのままに描き、高齢まで異性を求めながら、周囲の無理解と自らの偏見の谷間で演じる多くの老人たちの悲喜劇に光をあてた異色のドキュメント。 四六／九八〇円

〈内容〉 1こまったセックスの相談／2老いの生きざま／3なぜセックスをとりあげるか／4調査に飛び出す／5調査記録は語る／6老人の性の現実／おわりに

●みんなの老後 O P 叢書

黒田輝政著 老人福祉やサービスは一体どこまで進んでいるか。理論が先に立って中身がついていけないのが現状ではないだろうか。日本全国はもとより欧米にまで及ぶ福祉の現場からの報告と共にその動向を探る。 四六／九八〇円

●ちっちゃいママと呼ばれて

服飾デザイナー 森南海子

愛娘むむちゃんに「ちっちゃいママ」と呼ばれて親しまれている著者が、家庭の子育て、衣装と人間とのかわりあいなどを流麗な文章で披露する心温まるエッセイ集。

■カバーデザイン／谷内六郎 ●B6／九八〇円

女たちの  
民法問答

●女の生と性・60事例 980円

本書は、結婚、夫婦、離婚、親子、扶養、相続の六項目で構成。筆者八人は全員が女性弁護士。一見男女平等に徹した法の中に不平等の矛盾を浮び上げながら、法律上の解答を示す。男女の形式的平等に甘んじる人々への挑戦、そして新たな論争への出発点になることをこの本のねらいとしている。

〈田口新聞書評より〉

樋口恵子編著

あしたの女たちへ

●女の生きがい働きがい論 980円

婦人雇用調査研究会編

働く婦人と保育

●どうすれば働きながら立派な子どもが育てられるか 1400円

千葉家裁判書官 中村敏和著

青い非行

●非行の実態と予防のしつけ学 980円

読売新聞社文化部編

中学生の現場から

●その心理と行動をさぐって 980円

学陽書房

東京都千代田区富士見一七七一  
電〇三二二六一一一一

# 女の状況を考え続けて20号

ずっしりと重い雑誌です。

女の生きる重さをたじろがず見つめ

明日に向けて共に考える雑誌です。

- |                 |                 |
|-----------------|-----------------|
| 1 女が働くこと        | 12 メキシコ会議見聞録    |
| 2 女性の進出のために     | 13 国際婦人年と行動計画   |
| 3 主婦の解放をめくって    | 14 女の記録         |
| 4/5 何かしたい主婦のために | 15 職場の中の女性差別    |
| 6/7 運動を進めよう     | 16 女と結婚         |
| 8 産む性としての女      | 17 女と生涯教育・生涯学習  |
| 9 働く女と主婦の接点     | 18 いま女性解放は      |
| 10 女と法          | 19 女にとって子どもとは   |
| 11 女と教育         | 20 ひろがる運動と雇用平等法 |

[定価]1-3 ¥200 4/5 ¥300 6/7 ¥350 8 ¥380 9 ¥430  
10 ¥700 11-16 ¥750 17 ¥780 19 ¥800 18、20 ¥1,300  
[送料]買上総額500円まで¥150 1,000円まで¥200  
3,000円まで¥250 5,000円まで¥300 5,000円以上無料

## 20号発行記念講演と映画のつどい

6月23日(土) 1時半～5時 新宿文化センター  
講演 水田珠枝氏〈これからの女性解放運動〉  
映画 時枝俊枝監督〈子どもを見る目〉〈お母さんの勉強会〉  
参加費 800円 保育費(予約制)300円

